生成日: 2026-10-27

サウォネ語学書

序章 サウォネとは

サウォネ(ttubooneu /səwo'ne:/)とは、ケヘティ(サウォネ:kueketeek, アイシェノン: GehetönDom')東部に位置するフォウシェ(サウォネ:poootke, アイシェノン: Phö'she)周辺で話される言語で、フォウシェの第一公用語でもあります。 サウォネまたはフォウシェ語と呼ぶのが正式な呼称で、サウォネ語は誤りです。 話者数約20万人、文字はサナフナナ(ttaennuk'nuanua)というわずか9文字のみからなる独自のアルファベットを用います。 接頭辞と接尾辞を多用して時制・態・相などを表現する膠着語で、基本的な語順はSOVまたはSVですがが、文脈や修飾構造によってしばしば変化します。

文字は9文字と少ないものの、それらの組み合わせで10個の母音と20個の子音を区別します。 また、会話ではリエゾンや母音の脱落といった音韻変化が頻繁に起こります。

文法面では、名詞に多数・少数という区分がある点や、動詞を挟む両側接辞による否定、動作が「予測通りか予期せぬものか」を区別する点が特徴的です。 また、コピュラを持たず名詞の並置で表現する点や、10進法の数詞体系も挙げられます。

目次

第1章 文字

第2章 発音

- 1部 母音
- 2部 子音
- 3部 強勢
- 4部 リエゾンと縮約

第3章 コピュラ文

- 1部 人を呼ぶ、「〜は〜だ」
- 2部 これ・それ・あれ
- 3部 単数・少数・複数

第4章 動詞の基本

- 1部 語順
- 2部 時制
- 3部 否定
- 4部 存在と不在

第5章 疑問文

- 1部 「何・どれ」
- 2部 「〜ですか？」

第14章 数と時間

- 1部 数の数え方
- 2部 大きな数
- 3部 記数法
- 付録 数字変換ツール

第1章 文字

サウォネは「サナフナナ」(ᒪᒪᓴᓄᐁᐁᕼᐦᐧᐁᕼᓴᐁᕼᓴ ttaennuk'nuanua)という独自の文字を用います。

サナフナナは母音にあたる文字4個と、子音にあたる文字5個の計9文字のみで構成されます。 これに加え、約物や記号、数字などを用いてサウォネは記述されます。

注意として、サウォネは一つの文字が一つの音を表すわけではありません。 例えば、ᓴ aは単体では/ɑ/と発音されますが、ᓴᐯ aeはひとまとまりで/a/と発音されます。 これは子音も同様です。 「基本の発音」とあるのは、あくまで代表的な音を示しているということです。

表1: サナフナナ

文字	ラテン文字転写	基本の発音	説明	例
ᓴ	a	/ɑ/	日本語の「あ」にあたる母音です	ᓴᐧᐧᐯ akke /ɑ'xe/ 私
ᐯ	e	/e/	日本語の「え」や「い」にあたる母音です	ᐯᒪᒪᐋ ettoo /e'so/ 5
ᐋ	o	/o/	日本語の「う」や「お」にあたる母音です	ᐋᕼᖶᐁ oubne /'u:me/ 人
ᕼ	u	/ə/	いわゆる曖昧母音(schwa)です。また、母音を伸ばします	ᕼᒪᓴ uta /ə'ta/ 風
ᒪ	t	/t/	TやR、Sの音を表します	ᒪᐋᐋᐋ tooo /toᵾ/ イス
ᖶ	b	/b/	BやW、Vの音を表します	ᖶᐋᐁᕼᓄᕼ bonueu /wu'ne:/ 触る
ᐧᐯ	k	/k/	KやHの音を表します	ᐧᐯᓴᒪᕼᐋ katuo /ha'ru/ 口
ᚠ	p	/p/	PやFの音を表します	ᚠᓄᐯᐧᐯ peek /fi/ 種子
ᐁ	n	/n/	NやYの音を表します。また、母音を鼻母音化します	ᐁᐋᐋᚠᐋᐋᐁ noopoon /jo'fũ/ 眠る

表2: 約物など

文字	ラテン文字転写	名称	説明
ᐧ	'	アフェショウフォテ ᓴᚠᚠᐧᓄᒪᐧᐯᐋᐋᐋᚠᐋᐋᒪᓄ app'e-tkooopoote	文字の縮約を示す
-	-	レノテ ᒪᕼᓄᐁᐧᐋᐋᒪᓄ tuen'oote	接頭辞や目的語などの接続を示す
᙮	.	ハット ᐧᕼᒪᐧ kut'	文の区切りを表す。日本語の句読点に対応

サウォネでは表に示した文字以外にも、数を表すのにサナフナナ数字と呼ばれる独自の数字を用います。詳細は**14章3節 記数法**で説明します。

なお、このサナフナナは300年ほど前に当時のフォウシェの王 カティリ(サウォネ:𐑒𐑛-𐑙 𐑥𐑤𐑣𐑤𐑤, bn'-p' kuteetuee)の勅令によって制定されました。 勅令を受けたのは招集された8人の知識人たちで、その中には当時の王妃であり数学者でもあったペウナウ(サウォネ:𐑙𐑤𐑒𐑛𐑧𐑥, puebnaou)もいました。

カティリは異常なほどに合理性と美しさにこだわり、当時30以上あった文字をたった9文字に変えました。サナフナナの字形は以前の文字の一部を参考に作られています。

カティリは変人国王として知られ、文字の制定以外にも多くの改革を行いました。 これらの改革は、現在のフォウシェの文化や言語にも影響を与えています。

第2章 発音

1部 母音

一般的なサウォネでは8つの非鼻母音と2つの鼻母音、そしてそれらの長音と二重母音を区別します。 サウォネでは母音を基音(ᠮᠬᠰᓗᐯᐤᐱᐃᐣ puaton'unn)と呼び、基本の8+2=10個の母音を単基音(ᐃᐯᐃᐣ-ᠮᠬᠰᓗᐯᐤᐱᐃᐣ nonn-puaton'unn)、長音と二重母音を複基音(ᓂᓪ-ᠮᠬᠰᓗᐯᐤᐱᐃᐣ et-puaton'unn)と呼びます。

単基音

表1: 単基音

綴り	発音	説明
ᓗ a	/ɑ/	>日本語のオっぽいア、奥まったアの音です
ᓗᓂ ae	/a/	日本語のエっぽいア、前のほうで出すアの音です
ᐯ o	/u/	狭いウの音です
ᐯᐯ, ᐯᓗ oo, oa	/o/	やや広いウ〜オの音です
ᐯᓂ oe	/œ/	狭いオとエの中間の音です
ᓂ e	/e/	広いエの音です
ᓂᓂ ee	/i/	狭いエ〜イの音です
ᐱ u	/ə/	口に力を入れず軽くウと言う音です
ᐯᐃ on など	/ũ/	oの口で鼻から出す音
ᐯᓂᐃ oen など	/œ̃/	oeの口で鼻から出す音

鼻母音

サウォネの鼻母音は/ũ/と/œ̃/の2種類しかありません。 しかし、綴り字としてはonやoen以外にも、以下のような形で現れます。

表2: 鼻母音の綴り

綴り	発音
ᏁᎴ, ᏁᏁᎴ, ᏁᏏᎴ, ᏏᎴ, ᏂᎴ on, oon, oan, an, un	/ũ/
ᏁᏤᎴ, ᏤᎴ, ᏤᏤᎴ, ᏏᏤᎴ oen, en, een, aen	/œ̃/

複基音

単基音を長音にするには、基本的に後ろにuをつけます。 ただし、aを長音にするときに限って、 aaと、aを繰り返します。

また、サウォネにはしばしば二重母音が現れます。
次の2つは独自の記法をもった二重母音の例です。

- ᏁᏁᏁ ooo /ou̯/
- ᏤᏤᏤ eee /ei̯/

それ以外にも、語中では次のような二重母音が現れます。 二重母音は基本的に**前の母音が主な音**で、後ろの母音は単独で音節となりません。 また、**後ろの母音は前の母音に引っ張られて、音が変わることがあります**。

- ᏏᏤᏤ aee /ɑi̯/ (例: 「春」 ᏏᏤᏤᎴᏤ aeene /ɑi̯j/)
- ᏤᏏ ea /ea̯/ (例: 「値上げする」 ᏆᏤᏏᏁᏯ beakok /wea̯'hu/, 後ろの/ɑ/ が/a/に変わっています。)

練習

- 「〜を」 ᏁᏁ oo /o/
- 「君」 ᏁᏂ ou /u:/
- 「出っ張り」 ᏆᏂᏁᎴ buon /bũ/

- 「春」 ᏏᏤᏤᎴᏤ aeene /ɑi̯j/
- 「再生」 ᏏᏤᏤᎴᏁᏤᏂ aeenoeu /ɑi̯'jœ:/

文章で練習してみよう。

ᏤᏂ ᏓᏎᏏᎴᏁᏁᏤ、

pu ta-aknooe.

/fə/ /tɑ'ŋuœ̯/

1 PROX-eat

/fə tɑˈɳuɶ/

私はこれを食べる。

第2章 発音

2部 子音

飾音

サウォネでは子音を飾音(しょくおん, ᐅᕆᓓᕆᒣᐟᕆᐅᐅ nuoubb'unn)と呼び、すべてで20の飾音があります。

飾音は基本の文字である ᒪ t、ᚷ k、ᒣ b、ᚔ p、ᐅ n の5つに、いくつかの文字を組み合わせることでできます。これらの基本の文字を基本飾音と呼びます。

飾音は、一部を除いて次のような規則で作ることができます。

- 単飾音(ᐅᓗᐅᐅ-ᐅᕆᓓᕆᒣᐟᕆᐅᐅ nonn-nuoubb'unn): 基本飾音のみからなる飾音
- 声飾音(ᕆᐅᐅ-ᐅᕆᓓᕆᒣᐟᕆᐅᐅ unn-nuoubb'unn): 基本子音の後ろに ᕆ u をつける
- 連飾音(ᒪᒪᓴᐅᓴ-ᐅᕆᓓᕆᒣᐟᕆᐅᐅ tteenen-nuoubb'unn): 基本子音を繰り返す

例外は、ᒪᚷ tk、ᒪᒪᚷ ttk、ᒣᐅ bnです。

表1: 飾音

グループ	綴り	発音	説明
t	t	/t/	日本語の「タ」の子音です
	tu	/r/	日本語の「ラ」を、よりはじくようにした子音です
	tt	/s/	日本語で「ッサ」という時の子音です
	tk	/ʃ/	英語のshの音です
	ttk	/t͡ʃ/	舌を前に出して「チ」というときの音です
k	k	/h/	日本語の「ハ」の子音です
	ku	/k/	日本語の「カ」の子音です
	kk	/x/	ドイツ語のch。口の後ろ側を狭めて「ハ」というときの音です
	kkk	/k͡x/	kkの前に、小さく/k/を付けて、「ᵏハ」というような音です
b	b	/w/	日本語の「ワ」の子音です
	bu	/b/	日本語の「バ」の子音です
	bb	/v/	英語のvを少し長くしたような音です
	bbb	/b͡v/	bbの前に、小さく/b/を付けて、「ᵇ ヴァ」というような音です
	bn	/m/	日本語の「マ」の子音です
p	p	/f/	英語のfの音です
	pu	/p/	日本語の「パ」の子音です
	pp	/p̪f̪/	ドイツ語のPfの音
n	n	/j/	日本語の「ヤ」に近い。舌を後ろに上げて、口の上と擦るようにした音
	nu	/n/	日本語の「ナ」の子音です

グループ	綴り	発音　説明
/ʔ/	日本語では、(ポケモンの)「ウッウ」と言うときの、ウとウの間の飲み込むような音。サウォネではᗪ n の前のᒪ t や、母音と子音を持たない音節の間などに稀に現れる。	

末飾音

サウォネでは、単語の末尾の子音を末飾音(まつしょくおん, ᚷᚻᒪᚻᚷᚻᔆᗪᚻᐱᚻᎢᎢᐟᚻᗪᗪ kutukua-nuoubb'unn)と呼び、語頭や語中の飾音とは音が変わります。

例えば、次の単語を見てみましょう。 末尾のᒪ tや、ᚷ k、ꓲ pは原則として発音しません。

- 「積む」 Ꭲᐱᗪᒪ bont /wũ/
- 「公共の, 社会の」 ᒪᒪᔑᚻᗪᒪ tteunt /sœ̃/
- 「腕」 ᒪᒪᚻᗪꓲ ttunp /sũ/
- 「ゆるす」 ᔆꓲᔑᚷ apek /ɑˈfe/

末尾のᎢ bは/u/の音になります。 基本的に直前の母音と結合して二重母音となり、/u̯// のように表記されます。

- 「不足する」 ᎢᎢᐱᔑᒪᚻᐱᎢ bboetuoob /vœˈrou̯/
- 「学校」 ᚷᚻᚷᐱᔑᎢ kukoeb /həˈhœu̯/

ᔑ eの仲間の母音である、ᔑᔑ ee、ᐱᔑ oeなどのあとのᗪᔑ **ne**は/-j/という音になります。

- 「街, 集落」 ꓲᔑᔑᗪᔑ peene /fij/
- 「一方の」 ᒪᒪᔑᔑᔑᗪᔑ tteeene /sejj/

それ以外の、次のような末飾音はそのまま発音します。

- 「折れる, しわ」 ᗪᔆᒪᔆᔑᎢᎢ nataebb /jɑˈtav/
- 「店」 ᚷᚻᔆᚷᚷ kuakk /kɑx/

まとめると、次のようになります。

表2: 末尾の子音

末尾の子音	発音
ㄴt, ㄨk, ㅁp	発音しない
ㄱb	/u/の音になる
ㅇeなどの母音のあとのᄂㅇne	/j/の音になる
その他	そのまま発音する

この表は、単語を単独で発音するときや、次に子音が続くときの発音を示しています。 次の要素が母音だと、単独では発音されない末飾音が発音されるようになります。 単語や接辞をつないだときの発音については、4部「リエゾンと縮約」で扱います。

第2章 発音

3部 強勢

サウォネでは、強勢（いわゆるアクセントやストレス）によって単語を区別します。 強勢は単語ごとに決まり、文の中で移動したり弱まったりすることはありません。

補足: 発音記号では、強勢を示すために**/'/**を使います。 **/'/**は、強勢がある音節の最初の文字の上に付きます。

原則

原則として、サウォネの強勢は**最後の音節**に置かれます。 この最後の音節のことを言語学ではUltimaと呼びます。

- 「机」ᒪᔑᐅᔑᒪᔪ tanate /tɑjɑ'te/
- 「石, 山肌」ᚷᚼᒪᔪᒪ kuteet /hə'ti/

複基音・鼻母音がある場合

強勢は必ずしも最後の音節に置かれるわけではありません。
複基音（長母音や二重母音）もしくは鼻母音がある場合は、その音節に強勢が置かれることがあります。
優先順位としては**複基音(長母音 > 二重母音) > 鼻母音 > 単基音**です。 優先順位が同じなら、そのうちもっとも後ろにあるものに強勢が置かれます。

- 「彼・彼女」ᓓᔮᚻᐟᓓᚴᑐᔪ oeup'oubne /œːˈfuːme/
- 「場所」ᔑᐅᒪᓓᓓᚴ antoou /'œ̃toː/
- 「癒す」ᚷᚴᔪᔪᒪᚴᓓ kueeetuo /'keᵢ̯ru/

連飾音がある場合

連飾音で始まる音節は、語末でなくても強勢が付く傾向があります。

- 「欠ける」ᑐᑐᓓᒪᚴᓓᓓᑐ bboetuoob /'vœroᵤ̯/

曖昧母音のある音節

ɦ uが曖昧母音/ə/として働く音節は、強勢を受けません。 ただし長音化のためのɦ uはその限りではありません。

- 「私たち」ⱱɭɱɦ etpu /'efə/
- 「見せる」ɱɱⱷⱭɦ ppanuu /'p̪fɑnə/

接尾辞がつく場合

接尾辞がつくと、そこに強勢がつきます。
例として、-ɤⱱɦ -oeu /-œː/や -ⱷχɤχ -akok /-ɑ'hu/などには、最終音節に強勢がつきます。
ただし、-ɤɤɭⱱ -oote は/-o'te/ではなく/-'ote/の位置に強勢がつきます。-ⱱχɦⱱ -ekueも同様に/-'eke/となります。
-ebで終わる単語の多くは、もともと別の単語 keb が接尾辞的に結び付いたものであり、ここにも強勢が付きにくいです。

- 「考え」ⱱⱱɭɤⱱɦ eetoeu /i'tœː/
- 「聞こえる, 可聴音」ɦⱭⱭⱱχɦⱱ unnekue /ũ'neke/
- 「教師」ϰⱱɭϰɤɤɭⱱ ketkoote /he'ʃote/
- 「家事をする」ⱦⱭⱷɭɦɤ-ϰⱱⱦ bnatuo-keb /ˌmɑ'ru.eu̯/

実際の扱い

迷ったときは、辞典や転写に強勢が載っているならそれに従います。

第2章 発音

4部 リエゾンと縮約

ここまで、個々の単語の発音を説明してきましたが、本節では文中の発音の変化を説明します。
サウォネでは、単語と単語、または接辞と語幹の境界で音が連続するとき、発音を滑らかにするための**リエゾン（tteenen-etut）**や**縮約（tkooopoeu）**という現象が頻繁に起こります。

リエゾン

次の要素が母音だと、単独では発音されない末飾音が発音されるようになります。 この現象をリエゾン（ᒪᒪᔕᐁᐁᔕᒪᐦᒪ tteenen-etut）といいます。 リエゾンは単語と単語の間だけでなく、レノテで結ばれた語や、語幹と接辞の境界でも起こります。

次の要素が母音かどうかは、綴りではなく実際の発音で判断します。 また、鼻母音を作る語末の ᐁ n のあとに母音が続くと、 鼻母音を保ったまま /n/ も発音します。

末尾	単独・子音の前	母音の前
ᒪ t	発音しない	/t/
ᚷ k	発音しない	/h/
ᚠ p	発音しない	/f/
ᒣ b	直前の母音と結び付いて /u̯/	/w/
鼻母音を作る ᐁ n	直前の母音を鼻母音化する	鼻母音に続けて /n/ を発音する

例

ᒪᒪᔑᚠᒪ　　ᔑ'ᒪᔕᐁ

tte-put　　**a'teun**

/sifə/　　/ɑ'tœ̃ː/

PASS.PST-find　　newly

/sifətɑ'tœ̃ː/

新たに発見された

語末の t が次の母音 a と結びついています。

レノテの内部や、語幹と接辞の境界でも同じ規則が働きます。

形	発音	起きていること
ᚠᚢᚳᛏ put-ab	/fətɑu̯/	単独では発音しない ᚳ t を /t/ と発音する
ᚳᚢᚳᚢᚢᚷᛏ tutuook-ab	/tə'rohɑu̯/	単独では発音しない ᚷ k を /h/ と発音する
ᚷᚹᛏᛏ keb-a	/ewɑ/	単独では /u̯/ になる ᛏ b を /w/ と発音する
ᚩᚢᚢᚠᚢᚩᛏ noopoon-a	/jo'fũnɑ/	鼻母音を保ち、そのあとに /n/ を発音する

リエゾンでは、境界にある末飾音が発音されるようになります。 一方、次に扱う縮約では、境界に並ぶ母音などが省略されたり、ほかの音に吸収されたりします。

縮約

連続する母音のうち、特に ᚢ u のような弱い音が省略されたり、母音が吸収されたりします。 このように、母音が縮んで発音されることを縮約(tkooopoeu)といいます。

原則、語幹の母音が残り、接辞の母音が省略されますが、語幹の母音が弱い場合は、接辞の母音が残り、語幹の母音が省略されることもあります。 その他慣例によって、語幹の母音が残り、接辞の母音が省略されることもあります。

省略された箇所はしばしばアフェショウフォテ(app'e-tkooopoote)ʹ'で示されますが、発音上でのみ省略される場合もあります。

例

ᚠᚢ　ᚷᛞᛁᚠᚢᚷ

pu　kn'e'pek.

pu　knu-e-apek.

/fə/　/ŋe'fe/

1　DEON-PASS-forgive

/fə ŋe'fe/

私は許されるべきだ

元の形：knu-e-apek（knu の u と apek の a が省略）

第3章 コピュラ文

1部 人を呼ぶ、「〜は〜だ」

ここからは、サウォネでの簡単な会話を学んでいきましょう。

第3章の最初の本課では、実際の短文に触れながら**人称代名詞**と、日本語の「〜は〜だ」にあたる**名詞の並置**を整理します。 サウォネには「だ」「です」にあたるコピュラがないため、述語は名詞の並置そのもので表現されます。

また、人に呼び掛けるときには、呼びかけの接頭辞 ᚴᚴᚿ kke- を用います。文法用語ではこの形を呼格といいます。

人称代名詞の一覧

サウォネには、日本語の「私・あなた・彼」に相当する語が文頭の主語として使われます。 一人称にはくだけた ᛗᚢ pu と、丁寧な ᛊᚴᚴᚿ akke があり、ここではまず ᛗᚢ pu を用います。

二人称は、丁寧な ᚴᚳᚢᚢ konn と、くだけた ᚳᚢ ou があります。 「あなたたち」は、複数の接頭辞 ᚿᛈ- et- を単数の二人称につけて表し、ᚿᛈᚳᚢ etou や ᚿᛈᚴᚳᚢᚢ etkonn といいます。

三人称の ᚳᚿᚢᛗ'ᚳᚢᛚᚢᚿ oeup'oubne は彼・彼女・あの人を、複数の ᚿᛈᚳᚿᚢ'ᛚᚢᚿ etoeu'bne は彼ら・彼女らを指します。

	単数	複数
一人称	ᛗᚢ pu、ᛊᚴᚴᚿ akke	ᚿᛈᛗᚢ etpu
二人称	ᚴᚳᚢᚢ konn、ᚳᚢ ou	ᚿᛈᚳᚢ etou、ᚿᛈᚴᚳᚢᚢ etkonn
三人称	ᚳᚿᚢᛗ'ᚳᚢᛚᚢᚿ oeup'oubne	ᚿᛈᚳᚿᚢ'ᛚᚢᚿ etoeu'bne

代表例：掛け合い

初対面の教室で、教師のマネユ(ᛚᚢᛊᚢᚢᚿᚢᚿ bnanuene /ma'nej/)と受講者のベン(ᛚᚢᚿᚢᚢ buenn /bœ̃n/)が話しています。

会話

マネユ



kke-konn. **pu** **ketkoote.**

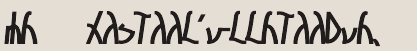
/kxe'hũn/ /fə/ /he'ʃote/

VOC-2 1 teacher

/kxe'hũn fə he'ʃote/

ねえあなた、私は教師です。

ベン



pu **koaboot'e-ttubooneu.**

/fə/ /hɑ'wo:te səwo'ne:/

1 student-ATTR-Sawone

/fə hɑ'wo:te səwo'ne:/

私はサウォネの学生です。

マネユ



konn **ketkoote** **bnup.**

/hũn/ /he'ʃote/ /mə/

2 teacher NEG.COP

/hũn he'ʃote mə/

あなたは教師ではありません。

ベン



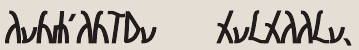
ne. **pu** **ketkoote** **bnup.**

/je/ /fə/ /he'ʃote/ /mə/

yes 1 teacher NEG.COP

/je fə he'ʃote mə/

はい、私は教師ではありません。



oeup'oubne **ketkoote.**

/œ:'fu:me/ /he'ʃote/

3 teacher

/œ:'fu:me he'ʃote/

あの方が教師です。

文法のポイント

コピュラを使わない「〜は〜だ」

サウォネには「だ」「です」にあたる**コピュラ**がありません。「A は B だ」は、**名詞や名詞句を並べる**だけで表します。文法の説明では、主語と述語の形を示すためにメタ変数として A B と書くことがあります。

参考例

oeup'oubne	**tann**	**ton.**
/œːˈfuːme/	/tɶ̃en/	/tũ/
3	strong	man

/œːˈfuːme tɶ̃en tũ/

彼は屈強な男性だ。

形容詞 tann が名詞 ton に先行し、述語としてまとまります。

否定の「〜ではない」には、述語のあとに bnup を置きます。たとえば述語が名詞なら、名詞の直後に bnup を続け、ketkoote bnup のような形になります。

呼びかけと呼格

人称代名詞の前に kke- を付けると、相手を名前のように呼びかける響きになります。会話の一行目は、丁寧な二人称 konn に対して kke-konn とし、「ねえあなた」と場を開いています。くだけた二人称 ou なら kke-ou となります。

本課の語彙

語形の欄は、左からサナフナナ表記とラテン転写を並べています。

語形	発音の目安	意味
ϰνʟϰλλʟν ketkoote	/heˈʃote/	教師、先生
ϰλϽΤλλʟν koaboote	/hɑˈwoːte/	学生、学習者。「学ぶ」を意味する動詞 ϰλϽΤλϦ koabou に行為者を表す接尾辞 -λλʟν -oote をつけて「学ぶ人」を意味します。
ʟʟϩΤλλDνϩ ttubooneu	/səwoˈneː/	サウォネ
ϰνʟϰϽ ʟʟν-ϰϰλϩD ketka tte-kkoun	/heʃɑsi ˈxũː/	人工言語。話すことを表す ϰνʟϰϽ ketka と「人工の」を意味する ʟʟν-ϰϰλϩD tte-kkoun の複合です。
ϰλϽΤλϦ koabou	/hɑˈwuː/	(〜を) 学ぶ、勉強する。
ΤDϩϡ bnup	/mə/	述語が〜であることの否定。コピュラに相当する働きをする語です。
ʟϽDD tann	/tɶ̃n/	屈強な、頑丈な
ʟλD ton	/tũ/	男性

練習

1. 次の日本語をサウォネ語で書きなさい。

    a. 私は教師だ。
    b. 彼女は教師ではない。
    c. 私たちは人工言語を学ぶ。

2. 次の文の空所に入るのにふさわしい人称代名詞を一つ選びなさい。

    あの人は教師だ。

    _____ ϰνʟϰλλʟν、ketkoote.

解答例

- 1.a: ϡϩ ϰνʟϰλλʟν、pu ketkoote.
- 1.b: λνϩϡˊλϩΤDν ϰνʟϰλλʟν ΤDϩϡ、oeup'oubne ketkoote bnup.
- 1.c: νʟϡϩ ϰνʟϰϽ-ʟʟν-ϰϰλϩD-ϰλϽΤλϩ、etpu ketka-tte-kkoun-koabou.
- 2: λνϩϡˊλϩΤDν、oeup'oubne.

第3章 コピュラ文

2部 これ・それ・あれ

前の課では人称代名詞と、名詞の並置による「〜は〜だ」を学びました。 本課では、物や場所を指し示す**指示詞**を整理します。

日本語の「これ・それ・あれ」は、話者からの距離と聞き手との関係で使い分けます。 サウォネでは、距離に加えて**視界に入っているかどうか**が軸になります。 近い／遠い／見えない、という三つの区別を押さえておきましょう。

指示詞の一覧

基本の指示詞は次の三つです。いずれも、単独で「これ／あれ」のように名詞の代わりにも、後ろに名詞をつけて「この〜／あの〜」のようにも使えます。

指示詞	距離	視界	日本語の目安
ta	近く	見える	これ、この (taa)
abbe	遠く	見える	それ、あれ、あの
oeu	近く／遠く	見えない	それ、あれ (見えないもの) 、その、あの

日本語の「それ」 (聞き手の近く) に一対一で対応する語はありません。 手元にあれば ta、遠くに見えていれば abbe、袋の中や別室のように見えなければ oeu を選びます。

また、実体を持たない概念や、幽霊、幻などの直接目に見えないもの、どこにあるかわからないものにも oeu が使われます。

代表例：掛け合い

教師のマネユが、布で隠した物を使ってベンに指示詞の問題を出しています。 隠されていた物が見えるようになったとき、指示詞がどう変わるかにも注目してください。

会話

マネユ (布で隠した物を示して)

oeu puk.

/œː/ /fə/

IVIS Q

/œː fə/

この中身は何でしょう？

ベン (形を見て予想して)



oeu tooo.

/œː/ /tou̯/

IVIS chair

/œː tou̯/

椅子です。

マネユ (布を取って)



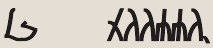
ta tooo bnup.

/tɑ/ /tou̯/ /mə/

PROX chair NEG.COP

/tɑ tou̯ mə/

椅子ではありません。



ta kooppo.

/tɑ/ /ho'p͡fu/

PROX bottle

/tɑ ho'p͡fu/

これは瓶です。

布を取る前は見えなかったので oeu、布を取ったあとは近くに見えているので ta を使います。

ベン (窓の外を指して)



a, abbe puk.

/ɑ/ /ɑ've/ /fə/

SEQ DIST Q

/ɑ ɑ've fə/

では、あれは何ですか？

マネユ

ᓭᑎᐯ　ᒪᐦᐦᐣ、

abbe　tokke.

/ɑ've/　/tu'xe/

DIST　tree

/ɑ've tu'xe/

あれは木です。

文法のポイント

距離と視界

指示詞の選び方は、「近いか遠いか」と「今見えているか」の組み合わせです。

- ᒪᓭ ta … 話者の近くにあり、視界に入っているもの
- ᓭᑎᐯ abbe … 遠くにあるが、視界に入っているもの
- ᐯᓴ oeu … 距離にかかわらず、今は見えていないもの

第1部で学んだ ᐯᓴᓂ'ᐦᑎᑕᐯ oeup'oubne (彼・彼女・あの人) も、この ᐯᓴ oeu を含みます。 近くにいる人が見えていれば ᒪᓂ'ᐦᑎᑕᐯ tap'oubne、遠くに見えていれば ᓭᑎᐯᓂ'ᐦᑎᑕᐯ abbep'oubne と言い分けられます。

指示詞＋名詞の並置

コピュラ文の形は第1部と同じです。ᒪ ᒪᐣᐣ ta tooo. のように、指示詞のあとに述語の名詞を並べます。否定も同じく、述語のあとに ᑐᑌᓂ bnup を置きます。 また、ᒪ ᓂᐦᐧ ta puk. のように、疑問詞 ᓂᐦᐧ puk は、尋ねたい位置に置くだけで疑問文になります。詳しくは第5章で扱います。

「この〜」と場所の言い方

「この〜」「その〜」のように名詞を修飾するときは、近い対象には ᒪᓭ- taa- を前置します。 たとえば ᒪᓭ- ᒪᐣᐣ taa-tooo は「この椅子」です。

場所を指すときは、指示詞に場所を表す要素を足した複合語を使います。

語形	意味
ᒪᑎᑕᐣ tabboo、ᒪᑐᒪᐣᐦ tantoou	ここ (近い地点・場所)
ᓭᑎᐯᑎᑕᐣ abbebboo、ᓭᑎ'ᑐᒪᐣᐦ abb'antoou	あそこ・そこ (遠くて見える場所)
ᐯᓴᑎᑕᐣ oeubboo	あそこ・どこか (見えない場所)

本課の語彙

語形の欄は、左からサナフナナ表記とラテン転写を並べています。

語形	発音の目安	意味
ᒐᓗ ta	/tɑ/	これ。近くて見えるもの
ᒐᓓᓗ taa	/tɑː/	この〜。近くて見えるものを名詞の前で修飾する形
ᓕᑎᐯ abbe	/ɑˈve/	あれ。遠くて見えるもの
ᐱᔭᐣ oeu	/œː/	それ・あれ。その・あの。今は見えないもの
ᒪᐱᐱᐱ tooo	/toʊ̯/	椅子、座席
ᒪᐱᐦᐦᐯ tokke	/tuˈxe/	木、大きめの植物
ᐦᐱᐱᕽᕽᐱ kooppo	/hoˈp̚f̚u/	瓶、花瓶、壺
ᑎᕽᐱᐣ nuou	/nuː/	幻、幻覚
ᕽᕽᐦ puk	/fə/	何、どれ。疑問を表す語
ᒪᓕᑎᐱᐱ tabboo	/tɑˈvo/	ここ、そこ (近い地点)
ᓕᑎᐯᑎᑎᐱᐱ abbebboo	/ɑˌveˈvo/	あそこ (遠くて見える地点)
ᐱᔭᐣᑎᑎᐱᐱ oeubboo	/ˈœːvo/	あそこ、どこか (見えない地点)

練習

1. 次の場面に合う指示詞を、ᒐᓗ ta / ᓕᑎᐯ abbe / ᐱᔭᐣ oeu から一つ選びなさい。

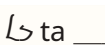
   a. 手元にあるペンを指すとき
   b. 窓の外に見える木を指すとき
   c. 別の部屋にある瓶について話すとき

2. 次の日本語をサウォネで書きなさい。

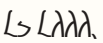
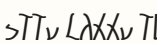
   a. これは椅子だ。
   b. あれは木ではない。
   c. あれは幻だ。

3. 次の文の空所に入るのにふさわしい語を書きなさい。

   これは何？

 ta _____.

解答例

- 1.a:  ta
- 1.b:  abbe
- 1.c:  oeu
- 2.a:  ta tooo.
- 2.b:  abbe tokke bnup.
- 2.c:  oeu nuou.
- 3:  puk

第3章 コピュラ文

3部 単数・少数・複数

前の課では、人や物を指す語を学びました。本課では、名詞が表す対象を一つのものとしていうか、複数のものとしていうか、ある一つ・一部分として取り出すか、についての表現を確認します。

サウォネの名詞には、無標の形、複数を表す 𐑝𐑤- et-を付ける形、少数を表す 𐑞𐑣𐑮- pue- を付ける形があります。 頭に付ける 𐑝𐑤- et-, 𐑞𐑣𐑮- pue- はそれぞれ複数辞と少数辞と呼びます。

三つの形

区分	形	使い方
単数	名詞そのまま	一つのもの、または名詞が表す種類・概念そのものを指す
複数	𐑝𐑤- et- + 名詞	複数のもの、または集団全体のそれぞれを指す
少数	𐑞𐑣𐑮- pue- + 名詞	名詞が表す概念のうち、ある一つ・一人・一部分を指す

少数の 𐑞𐑣𐑮- pue- は、単に「数が少ない」ことを表すわけではありません。 たとえば「犬」という種類を表す 𐑓𐑕𐑛𐑙 bank に付けると、𐑞𐑣𐑮-𐑓𐑕𐑛𐑙 pue-bank は、文脈の中で取り上げているある一匹の犬を表します。 あらかじめ犬の群れが話題になっている必要はありません。

名詞で見比べる

まずは、接辞の境目が見えやすい語で比べてみましょう。

名詞	複数	少数	意味の目安
𐑒𐑣𐑝𐑙 kuek	𐑝𐑤-𐑒𐑣𐑝𐑙 et-kuek	𐑞𐑣𐑮-𐑒𐑣𐑝𐑙 pue-kuek	鳥／鳥たち／ある一羽の鳥
𐑓𐑕𐑛𐑙 bank	𐑝𐑤-𐑓𐑕𐑛𐑙 et-bank	𐑞𐑣𐑮-𐑓𐑕𐑛𐑙 pue-bank	犬／犬たち／ある一匹の犬
𐑤𐑧𐑒𐑒𐑜 tokke	𐑝𐑤-𐑤𐑧𐑒𐑒𐑜 et-tokke	𐑞𐑣𐑮-𐑤𐑧𐑒𐑒𐑜 pue-tokke	木／木々／ある一本の木

語ごとに定着した意味

接辞を付けた形には、基本の意味から少し離れて、語として定着したものもあります。 たとえば 𐑞𐑣𐑮-𐑒𐑵𐑯𐑛 pue-koen は、𐑒𐑵𐑯𐑛 koen（歌）に 少数辞 𐑞𐑣𐑮- pue- が付いた形で、「歌や詩の一節」を表します。

第1部で出てきた ᓀᒪᐱᐦ etou（あなたたち）も、この ᓀᒪ- et- を ᐱᐦ ou (あなた) に付けた形です。 慣例的にレノテが省略されています。

まずは ᓀᒪ- et- と ᒣᐦᓀ- pue- の基本の働きを覚え、個々の語で定着した意味は語彙として少しずつ覚えていきましょう。

本課の語彙

語形	発音の目安	意味
ᓀᒪ- et-	/e/	複数を表す接頭辞
ᒣᐦᓀ- pue-	/pe/	少数を表す接頭辞
ᚲᐦᓀᚴ kuek	/kex/	鳥
ᒣᔆᐅᚴ bank	/wɛ̃e/	犬
ᒪᐱᚴᚴᓀ tokke	/tu'xe/	木、大きめの植物
ᒣᐦᓀ-ᚴᐱᓀᐅ pue-koen	/pe'hɛ̃e/	歌や詩の一節

確認

1. ᓀᒪ-ᒣᔆᐅᚴ et-bank と ᒣᐦᓀ-ᒣᔆᐅᚴ pue-bank の意味の違いを説明しなさい。
2. 「木々」と「ある一本の木」を、それぞれサウォネで書きなさい。
3. 「鳥たち」と「ある一羽の鳥」を、それぞれサウォネで書きなさい。

解答例

- 1: ᓀᒪ-ᒣᔆᐅᚴ et-bank は犬たち、ᒣᐦᓀ-ᒣᔆᐅᚴ pue-bank は文脈で取り上げるある一匹の犬。
- 2: ᓀᒪ-ᒪᐱᚴᚴᓀ et-tokke、ᒣᐦᓀ-ᒪᐱᚴᚴᓀ pue-tokke
- 3: ᓀᒪ-ᚲᐦᓀᚴ et-kuek、ᒣᐦᓀ-ᚲᐦᓀᚴ pue-kuek

第4章 動詞の基本

1部 語順

第3章では、名詞を並べて「〜は〜だ」と表す文を読みました。ここからは、誰かが何かを**する**文を作ります。 サウォネでは、動作をする人・ものを先に、動詞を後に置きます。

動詞文の基本形は「**主語 + 動詞**」、目的語があれば「**主語 + 目的語 + 動詞**」です。 目的語が1単語なら、その語を動詞の直前に置いてレノテでつなぎます。 たとえば「猫は魚を見る」は ᒪᔨᖷᑎᑕᐯᐁ ᒪᒪᔨᐱᔓᔓ-ᚑᖷᒪ、tkubnon ttkoee-put. となります。 目的語が複数の語からなる場合は、目的語の先頭に ᐱᐱ- oo- を付け、動詞から離して置きます。

動詞が2つの目的語を取る場合も、1つを動詞につなぎ、もう1つを ᐱᐱ- oo- で示します。 どのように、いくつの目的語を取るかは動詞によって異なるため、辞書を読んで知っておく必要があります。

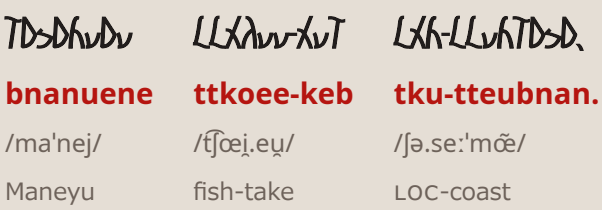
場所などの情報は、この中心となる語順に加えて表します。

目的語のつなぎ方

目的語の数	1単語か	形	例
1つ	はい	主語 + 目的語-動詞	ᒪᔨᖷᑎᑕᐯᐁ ᒪᒪᔨᐱᔓᔓ-ᚑᖷᒪ、tkubnon ttkoee-put. 猫は魚を見る。
1つ	いいえ 2単語以上	主語 + ᐱᐱ- oo-目的語 + 動詞	ᑎᖷᔓᐁ ᐱᐱ-ᔨᖷᒪᔓᔓᒪ-ᚑᖷᒪᔓᔓᔨᔓᑎ ᔨᔓᑎ、buenn oo-kuteet-puteekeb keb. ベンはきれいな石を拾う。
2つ	どちらでもよい	主語 + ᐱᐱ- oo-第一目的語 + 第二目的語-動詞	ᑎᖷᔓᐁ ᐱᐱ-ᑎᑕᔕᑎᓄᐁᓄ ᔨᖷᒪᔓᔓᒪ-ᚑᚑᔕᑎᖷᖷ、buenn oo-bnanuene kuteet-ppanuu. ベンは石をマネユに見せる。

ᐱᐱ- oo- は、動詞から離して置く目的語の先頭に付き、そのまとまり全体が目的語であることを示します。「きれいな石」では ᐱᐱ-ᔨᖷᒪᔓᔓᒪ-ᚑᖷᒪᔓᔓᔨᔓᑎ oo-kuteet-puteekeb 全体が「拾う」の目的語です。「石をマネユに見せる」のように対象と相手がある文では、見せる対象の ᔨᖷᒪᔓᔓᒪ kuteet を動詞につなぎ、相手の ᑎᑕᔕᑎᖷᓄᐁᓄ bnanuene を ᐱᐱ- oo- で示します。 目的語が句や文であっても、同じくその先頭に ᐱᐱ- oo- を付けます。

海辺の魚



bnanuene	ttkoee-keb	tku-tteubnan.
/ma'nej/	/t͡ʃœi̯.eu̯/	/ʃə.se:'mœ̃/
Maneyu	fish-take	LOC-coast

/ma'nej t͡ʃœi̯.eu̯ ʃə.se:'mœ̃/

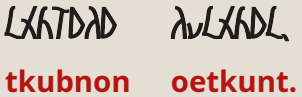
マネユは海辺で魚を手に取る。



buenn	oo-kuteet-puteekeb	keb.
/bœ̃n/	/o.hə'ti.fə'tiu̯/	/eu̯/
Ben	OBJ-stone-beautiful	pick.up

/bœ̃no.hə'ti.fə'tiweu̯/

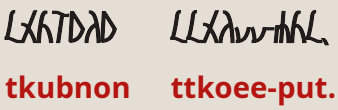
ベンはきれいな石を拾う。



tkubnon	oetkunt.
/ʃə'mũ/	/œ'ʃũʔ/
cat	come

/ʃə'mũnœ'ʃũʔ/

猫が来る。



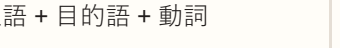
tkubnon	ttkoee-put.
/ʃə'mũ/	/t͡ʃœi̯.fə/
cat	fish-see

/ʃə'mũ t͡ʃœi̯.fə/

猫は魚を見る。

この四文では、主語のあとに動詞を置き、目的語があれば動詞の前に置いています。

動詞だけで終わる文と、目的語を取る文

形	場面の例	読み方
主語 + 動詞	 tkubnon oetkunt.	猫が来る。
主語 + 目的語 + 動詞	 tkubnon ttkoee-put.	猫は魚を見る。

後者では、目的語 ttkoee（魚）と動詞 put（見る）をレノテでつないでいます。 1単語の目的語なら、ttkoee-put のように書きます。 第2章で学んだレノテは、ここでは文の中で目的語と動詞のつながりも示します。

最初の文の tku-tteubnan は「海辺で」です。 動作の場所を加えていますが、「誰が・何を・どうする」の順序は変わりません。

本課の語彙

語形	発音の目安	意味
ttkoee	/ʧʃœi̯/	魚
keb	/eu̯/	手に取る、拾う
tteubnan	/se:'mœ̃/	海辺、沿岸
tku-	/ʃə/	場所や時間の状況を示す
oo-	/o/	動詞から離して置く目的語を示す
kuteet	/hə'ti/	石
puteekeb	/fə'tiu̯/	きれいな、美しい
tkubnon	/ʃə'mũ/	猫
oetkunt	/œ'ʃũʔ/	行く、来る
put	/fə/	見る、気づく

練習

1. 「猫は魚を見る」を、主語・目的語・動詞に分けなさい。
2. 「ベンは魚を手に取る」をサウォネで書きなさい。
3. 「猫が来る」をサウォネで書きなさい。
4. 「ベンはきれいな石を拾う」で oo- が必要な理由を説明しなさい。

解答例

- 1: 主語 tkubnon、目的語 ttkoee、動詞 put。
- 2: buenn ttkoee-keb.
- 3: tkubnon oetkunt.
- 4: 目的語の「きれいな石」が kuteet-puteekeb という複数語のまとまりだから。

第4章 動詞の基本

2部 時制

前の課の海辺の話が続きます。 「今する」「した」「これからする」を動詞でどう区別するか見ていきましょう。

現在の能動文は動詞に時制の接頭辞を付けず、過去は ᔑᒪ- at-、未来は ᚷᚻ- ku- を付けます。 目的語がある文では、目的語をこの接頭辞の後、動詞の語幹より前に置くので、「猫は魚を食べた」は ᒪᚷᚻᒣᐅᐯᐁ ᔑᒪ-ᒪᒪᚷᚳᚳᚹ-ᔑᚷᐁᚳᚳᚹ、tkubnon at-ttkoee-aknooe. の形になります。 主語と目的語の役割は、時制が変わっても同じです。

魚をめぐる話の続き

本文

ᒣᐅᔑᐅᐁᚳᐅᐯ	ᒣᚻᚳᐁᒪᚷᔑᔑ-ᚷᚹᒪᚷᔑ-ᒪᒪᚷᚳᚳᚹ-ᚷᚹᒣ、
bnanuene	**buenn-ketka-a-ttkoee-keb.**
/ma'nej/	/bɔ̃ɛn.he'ʃɑ.ɑ.t͡ʃœi̯.eu̯/
Maneyu	Ben-speak-SEQ-fish-hold

/ma'nej bɔ̃ɛn.he'ʃɑ.ɑ.t͡ʃœi̯.eu̯/

マネユは魚を手に持ったまま、ベンに言う。

マネユ

ᚳᒪᚺᚴ	ᚷᚻ-ᒪᔑᔑ-ᒪᒪᚷᚳᚳᚹ-ᒪᚻᒪᚻᚳᚳᚷ	ᒪᒪᚹᚻᐅᒪ、
etpu	**ku-taa-ttkoee-tutuook**	**tteunt.**
/'efə/	/ə.tɑː.t͡ʃœi̯.tə'ro/	/sɔ̃ɛː/
1.PL	FUT-PROX-fish-cook	together

/'efə ə.tɑː.t͡ʃœi̯.tə'ro sɔ̃ɛː/

「私たちはこの魚を一緒に料理します」

ᒪᚷᚻᒣᐅᐯᐁ	ᒪᔑᔑ-ᒪᒪᚷᚳᚳᚹ-ᚷᚹᒣ-ᔑᒣᐅᐯᐁᚳ-ᚷᚳᐅ、
tkubnon	**taa-ttkoee-keb-a-bnanuene-kon.**
/ʃə'mũ/	/tɑː.t͡ʃœi̯.ewɑ.ma'nej.hũ/
cat	PROX-fish-take-SEQ-Maneyu-approach

/ʃə'mũ tɑː.t͡ʃœi̯.ewɑ.ma'nej.hũ/

猫はマネユに近づき、その魚を取る。

tkubnon	tuuk	kue-tuuk.
/ʃə'mũ/	/rə/	/'kerəx/
cat	run	quickly

/ʃə'mũ rə 'kerəx/

猫は素早く走る。

tkubnon	at-ttkoee-aknooe	pooute.
/ʃə'mũ/	/ɑt.ʧʃœi̯.ɑ'ɳuœ̯/	/'fo:te/
cat	PST-fish-eat	far

/ʃə'mũnɑt.ʧʃœi̯.ɑ'ɳuœ̯ 'fo:te/

猫は遠くで魚を食べた。

bnanuene	tkubnon-put-to	a-bo'nnab.
/ma'nej/	/ʃə'mũ.fə'tu/	/ɑ'wũnɑu̯/
Maneyu	cat-gaze	silently

/ma'nej ʃə'mũ.fə'tu ɑ'wũnɑu̯/

マネユは無言で猫をじっと見る。

現在・過去・未来の形

サウォネの動詞は、接頭辞で動作の時を示します。現在の能動文では時制の接頭辞を付けません。 過去なら ᔑᒪ- at-、未来なら ᚷᚺ- ku- を、目的語より前に置きます。

時制	形	例	意味
現在	接頭辞なし	ᒪᚷᚺᑎᐁᐯ ᒪᒪᚷᐯᐯᑕᚷᑎᐁᐯ、tkubnon ttkoee-aknooe.	猫は魚を食べる。
過去	ᑔᒪ- at-	ᒪᚷᚺᑎᐁᐯ ᑔᒪ-ᒪᒪᚷᐯᐯᑕᚷᑎᐁᐯ、tkubnon at-ttkoee-aknooe.	猫は魚を食べた。
未来	ᚷᚺ- ku-	ᒪᚷᚺᑎᐁᐯ ᚷᚺ-ᒪᒪᚷᐯᐯᑕᚷᑎᐁᐯ、tkubnon ku-ttkoee-aknooe.	猫は魚を食べるだろう。

時制が変わっても、主語 ᒪᚷᚺᑎᐁᐯ tkubnon、目的語 ᒪᒪᚷᐯᐯ ttkoee、動詞 ᑕᚷᑎᐁᐯ aknooe の役割は同じです。 目的語を取らない文も、ᒪᚷᚺᑎᐁᐯ ᒪᚺᚺᚷ、tkubnon tuuk.（猫は走る）から ᒪᚷᚺᑎᐁᐯ ᑔᒪ-ᒪᚺᚺᚷ、tkubnon at-tuuk.（猫は走った）へと変えられます。

マネユの「一緒に料理します」

ᓄᒪᒣᕆ etpu は「私たち」、 文末の ᒪᒪᓄᕆᑐ tteunt は「一緒に」という意味です。 マネユは ᚴᕆ- ku- を使って、2人でこれから料理する予定を話しています。 ᒐᔅᔅ-ᒪᒪᚴᓕᓄᓄ taa-ttkoee は、目の前で話題にしている「この魚」です。 猫が魚を食べたあとも、マネユの発言の中ではまだ料理は未来の出来事です。

本課の語彙

語形	発音の目安	意味
ᔅᒪ- at-	/ɑt/	過去の能動を表す接頭辞
ᚴᕆ- ku-	/ə/	未来の能動を表す接頭辞
ᓄᒪᒣᕆ etpu	/'efə/	私たち、我々
ᚴᓄᒪᚴᔅ ketka	/he'ʃɑ/	話す、伝える
ᒐᔅᔅ- taa-	/tɑː/	この、その
ᒪᕆᒪᕆᓕᓕᚴ tutuook	/tə'ro/	料理する
ᒪᒪᓄᕆᑐ tteunt	/sœ̃ː/	一緒に、共に
ᚴᓕᐅ kon	/hũ/	近づく、寄る
ᒪᕆᕆᚴ tuuk	/rə/	走る
ᚴᕆᓄ-ᒪᕆᕆᚴ kue-tuuk	/'kerəx/	速く、素早く
ᔅᚴᐅᓕᓕᓄ aknooe	/ɑ'ɳuœ̯/	食べる
ᚸᓕᓕᒪᓄ pooute	/'foːte/	遠く、遠くに
ᚸᕆᒪ-ᒪᓕ put-to	/fə'tu/	眺める、見遣る
ᔅ-ᑎᓕᐅᐅᔅᑎ a-bo'nnab	/ɑ'wũnɑu̯/	無音で

練習

1. ᒪᚴᕆᑎᐅᓕᐅ ᒪᒪᚴᓕᓄᓄ-ᔅᚴᐅᓕᓕᓄᓄ, tkubnon ttkoee-aknooe. を過去形と未来形にしなさい。
2. 「猫は走った」をサウォネで書きなさい。
3. マネユの ᓄᒪᒣᕆ ᚴᕆ-ᒐᔅᔅ-ᒪᒪᚴᓕᓄᓄ-ᒪᕆᒪᕆᓕᓕᚴ ᒪᒪᓄᕆᑐ, etpu ku-taa-ttkoee-tutuook tteunt. が未来形であることを示す部分を挙げなさい。

解答例

- 1: 過去 ᒪᚴᕆᑎᐅᓕᐅ ᔅᒪ-ᒪᒪᚴᓕᓄᓄ-ᔅᚴᐅᓕᓕᓄᓄ, tkubnon at-ttkoee-aknooe.、未来 ᒪᚴᕆᑎᐅᓕᐅ ᚴᕆ-ᒪᒪᚴᓕᓄᓄ-ᔅᚴᐅᓕᓕᓄᓄ, tkubnon ku-ttkoee-aknooe.
- 2: ᒪᚴᕆᑎᐅᓕᐅ ᔅᒪ-ᒪᕆᕆᚴ, tkubnon at-tuuk.

- 3: 目的語より前に置かれた 𒆪 ku-。

第4章 動詞の基本

3部 否定

動詞を使う文の否定を学び、海辺の話を終えます。 第3章で学んだ「〜ではない」とは形が異なるので、どんな文を否定しているかにも注目してください。

動詞文は、動詞を前後から挟む形で否定します。 現在形は `[動詞]-ab`、過去形は `-at-[動詞]-ab`（縮約形 `b'at-[動詞]-ab`）、未来形は `beee-[動詞]-ab` です。 目的語があれば前側の接辞と動詞の間に置き、後側の `-ab` は動詞の後ろに付けます。

魚と石

本文

bnanuene	**buenn-ketka.**
/ma'nej/	/bɶ̃n.he'ʃɑ/
Maneyu	Ben-speak

/ma'nej bɶ̃n.he'ʃɑ/

マネユはベンに言う。

マネユ

pu	**bo-ttkoee-put-ab.**
/fə/	/wu.t͡ʃœi̯.fə'tɑu̯/
1	NEG-fish-see-NEG

/fə wu.t͡ʃœi̯.fə'tɑu̯/

魚が見えません。

buenn	**bnanuene-aket-a-kuteet-keb.**
/bɶ̃n/	/ma'nejɑhetɑ.hə˧ti'teu̯/
Ben	Maneyu-answer-SEQ-stone-hold

/bɶ̃n ma'nejɑhetɑ.hə˧ti'teu̯/

ベンは石を握ったままマネユに答える。

ベン



pu　b'at-ttkoee-aknoo'ab.

/fə/　/wat͡ʃœi̯.a'ɳoaų̯/

1　NEG-PST-fish-eat-NEG

/fə wat͡ʃœi̯.a'ɳoaų̯/

私は魚を食べませんでした。



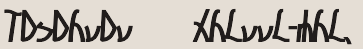
buenn　oo-bnanuene　kuteet-ppanuu.

/bɶn/　/oma'nej/　/hə'ti.'p̪f̪anə/

Ben　OBJ-Maneyu　stone-show

/bɶnoma'nej hə'ti.'p̪f̪anə/

ベンは石をマネユに見せる。



bnanuene　kuteet-put.

/ma'nej/　/hə'ti.fə/

Maneyu　stone-see

/ma'nej hə'ti.fə/

マネユは石を見る。



bnanuene　buenn-aket.

/ma'nej/　/bɶnɑhe/

Maneyu　Ben-answer

/ma'nej bɶnɑhe/

マネユはベンに答える。

マネユ



pu　beee-kuteet-tutuook-ab.

/fə/　/wei̯.hə'ti.tə'rohɑų̯/

1　NEG.FUT-stone-cook-NEG

/fə wei̯.hə'ti.tə'rohɑų̯/

石は料理しません。



tkubnon　noopoon-a-ekeeteb　tku-kuanto.

/ʃə'mũ/	/jo'fũnɑ.ehi'teu̯/	/ʃə'kœ̃tu/
cat	sleep-SEQ-return	immediately

/ʃə'mũ jo'fũnɑ.ehi'teu̯ ʃə'kœ̃tu/

猫は戻ってきて、すぐに眠る。

動詞を前後から挟む

動詞を否定するときは、動詞の前と後ろの両方に否定を表す接辞 (否定辞) を付けます。 目的語を取る文では、前側の否定辞、目的語、動詞、後側の否定辞という順です。

時制	形	場面の例
現在否定	𐤕𐤋-*[動詞]*𐤔𐤕 bo-*[動詞]*-ab	𐤌𐤊 𐤕𐤋-𐤋𐤋𐤇𐤋𐤅𐤅-𐤌𐤊𐤋-𐤔𐤕, pu bo-ttkoee-put-ab. 私は魚を見ない。
過去否定	𐤕𐤋-𐤔𐤋-*[動詞]*𐤔𐤕 bo-at-*[動詞]*-ab 縮約形 𐤕'𐤔𐤋-*[動詞]*𐤔𐤕 b'at-*[動詞]*-ab	𐤌𐤊 𐤕'𐤔𐤋-𐤋𐤋𐤇𐤋𐤅𐤅-𐤔𐤇𐤃𐤋𐤋'𐤔𐤕, pu b'at-ttkoee-aknoo'ab. 私は魚を食べなかった。
未来否定	𐤕𐤅𐤅-*[動詞]*𐤔𐤕 beee-*[動詞]*-ab	𐤌𐤊 𐤕𐤅𐤅-𐤇𐤊𐤋𐤅𐤅𐤋-𐤋𐤊𐤋𐤊𐤋𐤋𐤇-𐤔𐤕, pu beee-kuteet-tutuook-ab. 私は石を料理しない。

過去否定では、否定辞 𐤕𐤋- bo- の内側に過去の 𐤔𐤋- at- を残します。したがって、現在否定と過去否定を形で区別できます。 𐤕𐤋-𐤔𐤋- bo-at- は、実際の表記では 𐤕'𐤔𐤋- b'at- と縮約されることがあります。 また、母音で終わる動詞に 𐤔𐤕 -ab が続くと、その境界でも縮約が起こります。 そのため、𐤔𐤇𐤃𐤋𐤋𐤅-𐤔𐤕 aknooe-ab は 𐤔𐤇𐤃𐤋𐤋'𐤔𐤕 aknoo'ab と書きます。 未来否定には 𐤕𐤅𐤅𐤅 beee- を使い、この基本形では未来の 𐤇𐤊- ku- を重ねません。 後の章でくわしく扱いますが、受動文の否定では、過去受動の接辞 𐤋𐤋𐤅 tte- や未来受動の接辞 𐤇𐤊𐤅 kue- などを否定辞の内側に残し、 𐤕𐤋-𐤋𐤋𐤅-*[動詞]*𐤔𐤕 bo-tte-*[動詞]*-ab や 𐤕𐤋-𐤇𐤊𐤅-*[動詞]*𐤔𐤕 bo-kue-*[動詞]*-ab とします。受動文は後の章で詳しく扱います。

𐤌𐤊 𐤕𐤋-𐤋𐤋𐤇𐤋𐤅𐤅-𐤌𐤊𐤋-𐤔𐤕, pu bo-ttkoee-put-ab. は、直訳すると「私は魚を見ない」です。 話の中では、探している魚が視界にないので「魚が見えません」と訳しました。 𐤌𐤊 𐤕𐤅𐤅-𐤇𐤊𐤋𐤅𐤅𐤋-𐤋𐤊𐤋𐤊𐤋𐤋𐤇-𐤔𐤕, pu beee-kuteet-tutuook-ab. の「石は料理しません」は、このあと石を料理する予定がないことを表します。

第3章の否定との違い

第3章の 𐤋𐤔 𐤇𐤋𐤋𐤌𐤌𐤋 𐤕𐤃𐤊𐤌, ta kooppo bnup. は「これは瓶ではない」という**名詞文**の否定でした。 今回の「魚を見ない」「魚を食べなかった」は**動詞文**なので、動詞に否定の接辞を付けます。

動作をつなぐ 𐤀 -a-

動作を 𐤀 -a- でつなぐ場合は、 𐤀 -a- の前に中心となる動作を置き、後ろにその前提となる動作を置きます。 そのため A-a-B は、先に B を行い、そのあと A を行う形になります。

ᓄᐋᒪᓂᐋᕼᒪᔪᒪᐋᑐ aket-a-kuteet-keb では、 先に石を手に持ち、その状態で返事をします。 ᑐᓓᓓᓂᓓᑕᓂᐋ noopoon-a-ekeeteb では、 先に戻ってきて、そのあと眠ります。この語順を含む ᓂᐋ -a- の詳しい使い方は、第11章で扱います。

「ベンは石をマネユに見せる」では、石のほかに、見せる相手も表しています。 第1部で学んだとおり、相手の ᑎᑕᓄᑐᔪᐅ bnanuene に ᓓᐋ oo- を付けて動詞から離し、見せる対象の石は ᐋᕼᒪᔪᒪᓂᓂᓄᑐᕼ kuteet-ppanuu の形で動詞につなぎます。

本課の語彙

語形	発音の目安	意味
ᑐᓕ-*[動詞]*ᓄᑐ bo-*[動詞]*-ab	—	現在の動詞文の否定
ᑐᓕᓄᒪ-*[動詞]*ᓄᑐ bo-at-*[動詞]*-ab	—	過去の動詞文の否定。ᑌᓄᒪ-*[動詞]*ᓄᑐ b'at-*[動詞]*-ab と縮約できる
ᑐᔪᔪᔪ-*[動詞]*ᓄᑐ beee-*[動詞]*-ab	—	未来の動詞文の否定
ᓄᐋᒪᓂ aket	/'ɑhe/	答える、返事をする
ᓂᓂᓄᑕᕼᕼ ppanuu	/'p̪f̪ɑnə/	見せる
ᔪᐋᔪᒪᑎᑐ ekeeteb	/ehi'teu̯/	帰る、戻る
ᑐᓓᓂᓓᓓᑐ noopoon	/jo'fũ/	眠る
ᒪᐋᑲ-ᐋᕼᓄᑕᓕᐊ tku-kuanto	/ʃə'kœ̃tu/	すぐに、即座に

練習

1. 「私は魚を見ない」をサウォネで書きなさい。
2. 「私は魚を食べなかった」を、縮約しない形と縮約した形で書きなさい。
3. 「私は石を料理しない」を、これからの予定を否定する文として書きなさい。
4. ᑎᑕᕼᓂ bnup を使う否定と、ᑐᓕ-*[動詞]*ᓄᑐ bo-*[動詞]*-ab を使う否定の違いを説明しなさい。

解答例

- 1: ᓂᕼ ᑐᓕ-ᒪᒪᐋᓓᔪᓂᕼᒪᓄᑐ、pu bo-ttkoee-put-ab.
- 2: ᓂᕼ ᑐᓕᓄᒪ-ᒪᒪᐋᓓᔪᓄᐋᑕᓓᓓᔪᓄᑐ、pu bo-at-ttkoee-aknooe-ab. ／ ᓂᕼ ᑌᓄᒪ-ᒪᒪᐋᓓᔪᓄᐋᑕᓓᓓᐟᓄᑐ、pu b'at-ttkoee-aknoo'ab.
- 3: ᓂᕼ ᑐᔪᔪᔪ-ᐋᕼᒪᔪᒪᓂ-ᒪᕼᒪᕼᓓᓓᐋᐟᓄᑐ、pu beee-kuteet-tutuook-ab.
- 4: ᑎᑕᕼᓂ bnup は名詞文の「〜ではない」、ᑐᓕ-*[動詞]*ᓄᑐ bo-*[動詞]*-ab は現在の動詞文の「〜しない」を表す。

第4章 動詞の基本

4部 存在と不在

「存在する・生きている」は ᒪᒪᓄ'ʜ tte'u で表し、存在するものは目的語として接辞と動詞の語幹の間に置きます。 生き物がある場所に「いる」と言うときは、足の有無にかかわらず ᓂʜᔅᒪᒪᕕʜ puattoou を使えます。それまで存在していたものが今はなくなっている場合は、形容詞 ᓂᓄʜ peu を使って *[対象]*ᓂᓄʜ、*[対象]* peu. とします。 一方、過去にも未来にも存在しないものは ᒪᒪᓄ'ʜ tte'u を ᑕᕕ-*[対象]*-ᒪᒪᓄ'ᔅᑐ bo-*[対象]*-tte'ab で否定し、存在を否定する対象をその内側に入れます。

村の古い記録

本文

ᑐᗞᔅᗞʜᓄᗞᓄ	ᕕᕀ-ᒪᓄᗞᗞᓂ	ᚷʜᔅᚷᚴᓄᒪʜᔅᔅ	ᚷᚴᕕᕕᕕᚴ	ᒪᚴʜ-ᚷᓄᑕᕕᗞᒪ、
bnanuene	**oo-tennp**	**kuakketuaa**	**kkoook**	**tku-kebont.**
/ma'nej/	/o.tɶ̃nf/	/kɑ̟xe'rɑː/	/xou̯/	/ʃə.he'wũʔ/
Maneyu	OBJ-old	document	read	LOC-library

/ma'nej o.tɶ̃nf kɑ̟xe'rɑː xou̯ ʃə.he'wũʔ/

マネユは図書館で古い文書を読む。

ᔅᒪ-ᗞᕕᗞᗞ-ᑐᗞᔅᒪʜᕕ-ᒪᒪᓄ'ʜ	ᒪᚴʜ-ᓂᓄᓄᗞᓄ	ᒪᓄᗞᗞᓂ、
at-nonn-bnatuo-tte'u	**tku-peene**	**tennp.**
/ɑt.jũn.mɑ'ru.seː/	/ʃə.fij/	/tɶ̃nf/
PST-one-shop-exist	LOC-village	before

/ɑt.jũn.mɑ'ru.seː ʃə.fij tɶ̃nf/

以前、その村には1軒の店があった。

ᑕᔅᗞᚴ	ᔅᒪ-ᓂʜᔅᒪᒪᕕᕕʜ	ᒪᚴʜ-ᑐᗞᔅᒪʜᕕ、
bank	**at-puattoou**	**tku-bnatuo.**
/wɶ̃/	/ɑt.pɑ'soː/	/ʃə.mɑ'ru/
dog	PST-be.present	LOC-shop

/wɶ̃hɑt.pɑ'soː ʃə.mɑ'ru/

その店には犬がいた。

ᚷᕕᗞ-ᑕᓄᓄʜᚷ	ᑐᗞᔅᒪʜᕕ	ᓂᓄʜ、
kon-beeuk	**bnatuo**	**peu.**

/hũ'wi:/ /mɑ'ru/ /fe:/

now shop absent

/hũ'wi: mɑ'ru fe:/

今では店はもうない。



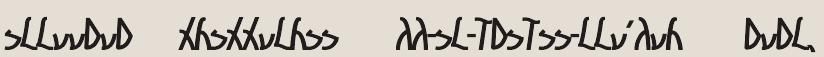
tou bank puattoou tku-peene.

/tu:/ /wɶ̃/ /pɑ'so:/ /ʃə.fij/

but dog be.present LOC-village

/tu: wɶ̃ pɑ'so: ʃə.fij/

だが、犬は村にいる。



atteenen kuakketuaa oo-at-bnabaa-tte'oeu nent.

/ˌɑsi'jɶ̃/ /kɑˌxe'rɑ:/ /o.ɑt.mɑ'wɑ:.se'œ:/ /jɶ̃/

next document OBJ-PST-palace-existence state

/ˌɑsi'jɶ̃ kɑˌxe'rɑ: o.ɑt.mɑ'wɑ:.se'œ: jɶ̃/

続いて、その文書には「宮殿があった」と記されている。



tou bo-bnabaa-tte'ab.

/tu:/ /wu.mɑ'wɑ:.seɑu̯/

but NEG-palace-exist-NEG

/tu: wu.mɑ'wɑ:.seɑu̯/

だが、その宮殿は初めから存在しなかった。



atteenen bank oetkunt tku-kebont.

/ˌɑsi'jɶ̃/ /wɶ̃/ /œ'ʃũʔ/ /ʃə.he'wũʔ/

then dog come LOC-library

/ˌɑsi'jɶ̃ wɶ̃hœ'ʃũʔ ʃə.he'wũʔ/

すると、犬が図書館へやって来る。



bank kuakketuaa-aknooe.

/wɶ̃/ /kɑˌxe'rɑ:.ɑ'ɳuo̯e̯/

dog document-eat

/wɶ̃ kɑˌxe'rɑ:.ɑ'ɳuo̯e̯/

犬はその文書を食べる。



atteenen	kuakketuaa	peu.
/ˌɑsi'jɶ̃/	/kɑˌxe'rɑ:/	/fe:/
therefore	document	absent

/ˌɑsi'jɶ̃ kɑˌxe'rɑ: fe:/

その結果、文書はもうない。

存在するものを動詞の内側に置く

ᒪᒪᔪˊᖘ tte'u で存在を表すとき、存在するものは目的語と同じ位置に入ります。 現在なら X-tte'u、過去なら at-X-tte'u です。 本文の ᔅᒪ-ᐅᐱᐁᐁ-ᑎᐅᔅᒪᕼᐱ-ᒪᒪᔪˊᖘ at-nonn-bnatuo-tte'u では、過去の接辞と動詞の間に「1軒の店」を置いています。

形	意味
[対象]-ᒪᒪᔪˊᖘ *[対象]*-tte'u	対象が存在する、生きている
ᔅᒪ-*[対象]*-ᒪᒪᔪˊᖘ at-*[対象]*-tte'u	対象が存在した、生きていた
ᑎᐱ-*[対象]*-ᒪᒪᔪˊᖘᔅᑎ bo-*[対象]*-tte'u-ab	対象が存在しない

生き物が場所に「いる」

ᙢᕼᔅᒪᒪᐱᐱᕼ puattoou は、生き物がある場所にいることを表します。 元は「立つ」という意味を持ちますが、足のある生き物だけに限りません。 本文では、過去の ᔅᒪ-ᙢᕼᔅᒪᒪᐱᐱᕼ at-puattoou と現在の ᙢᕼᔅᒪᒪᐱᐱᕼ puattoou を使い、店にいた犬が今は村にいることを表しています。

ᙢᔪᕼ peu と ᑎᐱ- *[対象]* -ᒪᒪᔪˊᔅᑎ bo- *[対象]* -tte'ab

ᙢᔪᕼ peu は、以前は存在していたものが今はなくなっている状態を表す形容詞です。 主語のあとにそのまま置き、ᑎᐅᔅᒪᕼᐱ ᙢᔪᕼ、bnatuo peu. のように使います。 これに対し、本当に過去にも未来にも存在しないものは、存在動詞 ᒪᒪᔪˊᖘ tte'u を否定します。

形	時間の捉え方	本文の例
[対象] ᙢᔪᕼ、*[対象]* peu.	以前は存在したが、今はない	ᑎᐅᔅᒪᕼᐱ ᙢᔪᕼ、bnatuo peu. 店はもうない。
ᑎᐱ-*[対象]*-ᒪᒪᔪˊᔅᑎ、bo-*[対象]*-tte'ab.	過去にも未来にも存在しない	ᑎᐱ-ᑎᐅᔅᑎᔅᔅ-ᒪᒪᔪˊᔅᑎ、bo-bnabaa-tte'ab. その宮殿は初めから存在しなかった。

ᑎᐱ-ᑎᐅᔅᑎᔅᔅ-ᒪᒪᔪˊᔅᑎ bo-bnabaa-tte'ab の縮約前の形は ᑎᐱ-ᑎᐅᔅᑎᔅᔅ-ᒪᒪᔪˊᕼᔅᑎ bo-bnabaa-tte'u-ab です。 否定辞の前半と動詞の間に ᑎᐅᔅᑎᔅᔅ bnabaa を置き、ᒪᒪᔪˊᕼᔅᑎ tte'u-ab を ᒪᒪᔪˊᔅᑎ tte'ab と縮約しています。

「存在したこと」を文書の内容にする

動詞に -ᓓᔮᐦ -oeu を付けると、その動作や状態を「〜すること」として扱えます。ᒪᒪᔪ´ᓓᔮᐦ tte'oeu は「存在すること・生存」を表し、ᔅᒪ-ᑕᐅᔅᑐᔅᔅ-ᒪᒪᔪ´ᓓᔮᐦ at-bnabaa-tte'oeu で「宮殿が存在したこと」となります。 本文では、このまとまりの先頭に ᓓᓓ- oo- を付け、ᐅᔪᐅᒪ nent の目的語にしています。

文をつなぐ ᒪᔐᐦ tou と ᔅᒪᒪᔭᔪᐅᔪ atteenen

ᒪᔐᐦ tou は、前の内容から予想されることに反する文を続ける「だが」にあたります。 1文の中では A-tou-B の形で「B だったが A である」と表せますが、本文のように文を分け、B. tou A. とすることもできます。ᔅᒪᒪᔭᔪᐅᔪ atteenen は出来事を次へ進め、文脈に応じて「続いて」「すると」「その結果」などと訳せます。

本課の語彙

語形	発音の目安	意味
ᒪᒪᔪ´ʰ tte'u	/se:/	存在する、生きる
ᒪᒪᔪ´ᓓᔮᐦ tte'oeu	/se'œ:/	存在すること、生存
ᕒᔭᐦ peu	/fe:/	以前は存在したが今はない、存在しない
ᕒᐦᔅᒪᒪᓓᓓᐦ puattoou	/pɑ'so:/	立つ、生き物がいる
ᒪᔐᐦ tou	/tu:/	だが、しかし
ᔅᒪᒪᔭᔪᐅᔪ atteenen	/ˌɑsi'jə̃e/	次に、そこで、その結果
ᚷᐦᔅᚷᚴᔪᒪᐦᔅᔅ kuakketuaa	/kɑˌxe'rɑ:/	情報、文書、書類
ᚷᔪᑐᓓᐅᒪ kebont	/he'wũʔ/	図書館、倉庫
ᑐᐅᔅᒪᐦᓓ bnatuo	/mɑ'ru/	家、店
ᑐᐅᔅᑐᔅᔅ bnabaa	/mɑ'wɑ:/	宮殿、屋敷
ᕒᔭᔪᐅᔪ peene	/fij/	街、村
ᑐᔅᐅᚷ bank	/wə̃e/	犬
ᚷᚷᓓᓓᚷ kkoook	/xoˌu/	読む、把握する
ᐅᔪᐅᒪ nent	/jə̃e/	言う、表す、記す

練習

1. 「以前、その村には1軒の店があった」をサウォネで書きなさい。

2. 𐤕𐤃𐤍𐤋𐤇𐤀 𐤋𐤅𐤇, bnatuo peu. と 𐤁𐤀-𐤕𐤃𐤍𐤕𐤍𐤍-𐤋𐤋𐤅'𐤍𐤕, bo-bnabaa-tte'ab. では、存在をどのように捉えているか説明しなさい。
3. 「宮殿が存在したこと」を、過去と -𐤀𐤅𐤇 -oeu を使って書きなさい。
4. 𐤋𐤀𐤇 tou を使い、「店はもうない。だが、犬は村にいる」の2文を書きなさい。

解答例

- 1: 𐤀𐤕-𐤃𐤀𐤃𐤃-𐤕𐤃𐤍𐤋𐤇𐤀-𐤋𐤋𐤅'𐤇 𐤊𐤊𐤇-𐤋𐤅𐤅𐤃𐤅 𐤋𐤅𐤃𐤃𐤋, at-nonn-bnatuo-tte'u tku-peene tennp.
- 2: 𐤋𐤅𐤇 peu は以前存在したものが今はない状態を表し、𐤁𐤀-*[対象]*-𐤋𐤋𐤅'𐤍𐤕 bo-*[対象]*-tte'ab は過去にも未来にも存在しないことを表す。
- 3: 𐤀𐤕-𐤕𐤃𐤍𐤕𐤍𐤍-𐤋𐤋𐤅'𐤀𐤅𐤇 at-bnabaa-tte'oeu
- 4: 𐤕𐤃𐤍𐤋𐤇𐤀 𐤋𐤅𐤇, 𐤋𐤀𐤇 𐤕𐤍𐤃𐤘 𐤋𐤇𐤍𐤋𐤋𐤀𐤀𐤇 𐤊𐤊𐤇-𐤋𐤅𐤅𐤃𐤅, bnatuo peu. tou bank puattoou tku-peene.

第5章 疑問文

1部 「何・どれ」

この部では、知りたい部分を 𐑐𐑓𐑒 puk に置き換えて尋ねる方法を学びます。 𐑐𐑓𐑒 puk は「何」と「どれ」の両方を表し、人を明示して尋ねるときは 𐑐𐑓𐑒𐑝𐑓𐑔𐑛𐑯 pukoubne、方法は 𐑐𐑓𐑒𐑒𐑯 pukke、場所または時は 𐑑𐑒𐑓-𐑐𐑓𐑒 tku-puk、原因は 𐑒𐑛𐑓-𐑐𐑓𐑒 knu-puk で尋ねます。 疑問文でも、英語のような語順の入れ替えは起きず、強勢の位置など発音も変わりません。

知りたいもの	形	使い方
物・選択肢	𐑐𐑓𐑒 puk	文の中の不明な物や選択肢の位置に置く。「何」「どれ」
人	𐑐𐑓𐑒𐑝𐑓𐑔𐑛𐑯 pukoubne	「誰」。人を尋ねていると明らかなら、単に 𐑐𐑓𐑒 puk とも言える
方法・様子	𐑐𐑓𐑒𐑒𐑯 pukke	「どう」「どのように」
場所・時	𐑑𐑒𐑓-𐑐𐑓𐑒 tku-puk	「どこで・どこに」または「いつ」。動詞と文脈から判断する
原因	𐑒𐑛𐑓-𐑐𐑓𐑒 knu-puk	原因を尋ねる「なぜ・何によって」

雨の日の工房

雨の朝、新入りのノエ (𐑙𐑓𐑤𐑯 nuooe /nuœ̃/) が、 職人パンナ (𐑐𐑓𐑯𐑯𐑙 puannu /'pũnə/) の工房へやって来ました。 パンナは、雨に濡れた金属板を作業台に置いています。

パンナ

𐑤𐑓	𐑕𐑤-𐑤𐑯𐑤𐑒𐑓𐑙𐑤	𐑑𐑒𐑓-𐑐𐑓𐑒.
ou	**at-oetkunt**	**tku-puk.**
/uː/	/ɑ.tœˈʃũʔ/	/ʃəˈfə/
2	PST-come	LOC.TIME-which

/uː ɑ.tœˈʃũʔ ʃəˈfə/

いつ来たんですか？

ノエ

𐑐𐑓	𐑕𐑤-𐑤𐑯𐑤𐑒𐑓𐑙𐑤	𐑔𐑙𐑯-𐑤𐑯𐑙𐑯.
pu	**at-oetkunt**	**bnee-tennp.**
/fə/	/ɑ.tœˈʃũʔ/	/miˈtɶ̃/

1 PST-come a.little.while.ago

/fə ɑ.tœˈʃũʔ miˈtɶ̃/

さっき来ました。

パンナが作業台の板を持ち上げると、ノエはこれから何をするのか尋ねます。

ノエ



ou ku-puk-poottop.

/uː/ /ə.fə.foˈsu/

2 FUT-what-bend

/uː ə.fə.foˈsu/

何を曲げるんですか？

パンナは、作業台の濡れた板を指します。

パンナ



pu ku-taa-nate-poottop.

/fə/ /ə.tɑː.jɑ.te.foˈsu/

1 FUT-this-board-bend

/fə ə.tɑː.jɑ.te.foˈsu/

この板を曲げます。

ノエ



taa-nate-poottop pukke.

/tɑː.jɑ.te.foˈsu/ /fəˈxe/

this-board-bend how

/tɑː.jɑ.te.foˈsu fəˈxe/

この板はどうやって曲げるんですか？

パンナは、板に道具を当てる位置と手の動かし方を示します。

パンナ



take taa-nate-poottop.

/tɑˈhe/ /tɑː.jɑ.te.foˈsu/

this.way this-board-bend

/tɑˈhe tɑː.jɑ.te.foˈsu/

こうやって曲げます。

ノエは板に触れ、思ったより冷たいことに気づきます。

ノエ

taa-nate	tte-ttaant	take	knu-puk.
/tɑ:.jɑ'te/	/si'sũ:/	/tɑ'he/	/ŋə'fə/
this-board	cold	this.way	cause-what

/tɑ:.jɑ'te si'sũ: tɑ'he ŋə'fə/

この板、どうしてこんなに冷たいんですか？

パンナ

bnoutka	at-taa-nate-tkopueu	bnee-tennp.
/'mu:ʃɑ/	/ɑt.tɑ:.jɑ.te.ʃu'pe:/	/mi'tœ̃/
rain	PST-this-board-wet	a.little.while.ago

/'mu:ʃɑ ɑt.tɑ:.jɑ.te.ʃu'pe: mi'tœ̃/

さっき雨に濡れたんです。

atteenen	taa-nate	tte-ttaant	take-ou-put.
/ˌɑsi'jœ̃/	/tɑ:.jɑ'te/	/si'sũ:/	/tɑ'hu:fə/
therefore	this-board	cold	this.way-2-notice

/ˌɑsi'jœ̃ tɑ:.jɑ'te si'sũ: tɑ'hu:fə/

だから、お分かりのとおり冷えているんですよ。

puk は不明な部分の位置に置く

サウォネでは、疑問詞を文頭へ移動しません。答えで物の名前が入る位置に、そのまま puk を置きます。 ou ku-puk-poottop. では、答えの taa-nate が入る目的語の位置に puk があります。

質問	答え	置き換わる部分
ou ku-puk-poottop.	pu ku-taa-nate-poottop.	puk → taa-nate

選択肢が並んでいる場面では、同じ puk を日本語の「どれ」と訳します。 物の種類を尋ねる「何」と、候補から選ばせる「どれ」に、別々の疑問詞はありません。

「誰」を尋ねる

人であることを明示するなら、ᚠᚢᚴ puk と ᚫᚢᛚᚢᚾ oubne (人) を合わせた ᚠᚢᚴᚫᚢᛚᚢᚾ pukoubne を使います。工房でパンナが置いた板を誰かが持ち上げたなら、次のように尋ねられます。

パンナ

ᚠᚢᚴᚫᚢᛚᚢᚾ　ᛃᛏ-ᛚᛃᛃ-ᛞᛃᛚᚹ-ᚴᚢᛏ、

pukoubne　at-taa-nate-keb.

/fəˈhuːˌme/　/ɑt.tɑː.jɑ.te.eu̯/

who　PST-this-board-take

/fəˈhuːˌme ɑt.tɑː.jɑ.te.eu̯/

誰がこの板を持ち上げたんですか？

ノエ

ᚠᚢ　ᛃᛏ-ᚴᚢᛏ、

pu　at-keb.

/fə/　/ɑteu̯/

1　PST-take

/fə ɑteu̯/

私です。

その場の候補が全員人であるなど、人を尋ねていることが明らかな場合は ᚠᚢᚴᚫᚢᛚᚢᚾ pukoubne の代わりに単に ᚠᚢᚴ puk とも言えます。 したがって、同じ場面で ᚠᚢᚴ ᛃᛏ-ᛚᛃᛃ-ᛞᛃᛚᚹ-ᚴᚢᛏ、puk at-taa-nate-keb. と尋ねることもできます。

「いつ」と「どこ」は文脈で決まる

ᛚᚴᚢ- tku- は、場所や時間の状況を示す接頭辞です。そのため ᛚᚴᚢ-ᚠᚢᚴ tku-puk は「いつ」と「どこで・どこに」の両方に使います。 到着時刻を話している本文の ᚫᚢ ᛃᛏ-ᚫᚹᛚᚴᚢᛞᛚ ᛚᚴᚢ-ᚠᚢᚴ、ou at-oetkunt tku-puk. は「いつ来たの？」ですが、 落とした場所を探しているときの ᚫᚢ ᛃᛏ-ᚠᚢᚹᚴᛞᚹᛏ-ᚴᚢᚫᛃᚻ ᛚᚴᚢ-ᚠᚢᚴ、ou at-puekneb-kuoap tku-puk. は「どこで道具を落としたの？」とも「いつ道具を落としたの？」とも取れます。

時間を聞いているのか、場所を聞いているのかを明示するときには、それぞれ ᚴᚢᛃᛞᛚᚫ kuanto と、ᛃᛞᛚᚫᚢᚻ antoou (または ᛃᛏᛏᚫᚫ abboo) を使いましょう。 「いつ」は ᛚᚴᚢ-ᚠᚢᚴᚴᚴᚢᛃᛞᛚᚫ tku-pukkuanto、 「どこ」は ᛚᚴᚢ-ᚠᚢᚴᚴᛃᛞᛚᚫᚢᚻ tku-pukantoou か ᛚᚴᚢ-ᚠᚢᚴᚴᛃᛏᛏᚫᚫ tku-pukabboo です。

原因と目的の「なぜ」

ᚷᚢᚾ knu- は原因や理由を示します。原因を表す名詞が不明なら、その位置を ᛒᚢᚲ puk にした ᚷᚢᚾ-ᛒᚢᚲ knu-puk で「なぜ」と尋ねます。 本文では、板が冷たくなった原因を尋ね、パンナは雨に濡れたという出来事で答えています。

ᛚᚷᚢᛏᚢᚾ tkubnu- は目的を表し、「なんのために」と目的を問う時には ᛚᚷᚢᛏᚢᚾ-ᛒᚢᚲ tkubnu-puk と言います。

ᛚᛋᚷᚢ take と ᛚᛋᚷᚢ-ᚣᚢ-ᛒᚢᛚ take-ou-put

ᛚᛋᚷᚢ take は「こうやって・このようにして」です。ᛚᛚᚢ-ᛚᛚᛋᛋᚢᛚ ᛚᛋᚷᚢ tte-ttaant take は、目の前の状態を示して「このように冷たい・こんなに冷たい」という意味になります。 本文では ᛚᛋᚷᚢ-ᚣᚢ-ᛒᚢᛚ take-ou-put を、相手もその状態に気づいていることを示す 「あなたにも分かるとおり」「お分かりのとおり」という表現として使っています。

本課の語彙

語形	発音の目安	意味
ᛒᚢᚲ puk	/fə/	何、どれ
ᛒᚢᚲᚣᚢᛏᚢᚾ pukoubne	/fə'huːˌme/	誰
ᛒᚢᚲᚷᚷᚾ pukke	/fə'xe/	どう、どのように
ᛚᚷᚢ-ᛒᚢᚲ tku-puk	/ʃə'fə/	いつ、どこで、どこに
ᚷᚢᚾ-ᛒᚢᚲ knu-puk	/ɳə'fə/	なぜ、何が原因で
ᛚᛋᚷᚢ take	/tɑ'he/	こうやって、このようにして
ᛚᛋᚷᚢ-ᚣᚢ-ᛒᚢᛚ take-ou-put	/tɑ'huːfə/	本文では「あなたにも分かるとおり」
ᚢᛋᛚᚢ nate	/jɑ'te/	板、板状の材料
ᛒᚣᚣᛚᛚᚣᛒ poottop	/fo'su/	曲げる、反らす
ᚷᚢᛏ keb	/eu̯/	取る、持ち上げる、動かす
ᛚᛚᚢ-ᛚᛚᛋᛋᚢᛚ tte-ttaant	/si'sũː/	冷たい、寒い
ᛏᚢᚣᚢᛚᚷᛋ bnoutka	/'muːʃɑ/	雨、霧
ᛚᚷᚣᛒᚢᚢᛋ tkopueu	/ʃu'peː/	濡らす、湿らす
ᛏᚢᚾᚾ-ᛚᚾᚢᚢᛒ bnee-tennp	/mi'tœ̃/	さっき、この間

確認テスト

次の文をサウォネに訳したとき、空欄に入る言葉を埋めなさい。

1. 「あなたはどれを料理しますか？」
   ᐊᐦ ᚷᐦ- (　　) -ᒪᐦᒪᐦᐊᐊᚷ、ou ku- (　　) -tutuook.
2. 「誰が図書館に来たんですか？」
   (　　) ᓴᒪ-ᐋᓄᒪᚷᐦᐅᒪ ᒪᚷᐦ-ᚷᓄᑎᐊᐅᒪ、(　　) at-oetkunt tku-kebont.
3. 「あなたはいつ眠りますか？」
   ᐊᐦ ᚷᐦ-ᐅᐊᐊᐢᐦᐊᐊᐁ (　　)、ou ku-noopoon (　　).
4. 「この石はなぜ冷たいんですか？」
   ᒪᓴᓴ- (　　) (　　) (　　)、taa- (　　) (　　) (　　).

解答例

- 1: ᛗᐦᚴ puk。「どれ」も「何」も ᛗᐦᚴ puk で、未来の ᚷᐦ- ku- と動詞のあいだに置く。全文は ᐊᐦ ᚷᐦ-ᛗᐦᚴ-ᒪᐦᒪᐦᐊᐊᚷ、ou ku-puk-tutuook.
- 2: ᛗᐦᚴᚷᐊᐦᑎᐅᓄ pukoubne。人を尋ねていることが明らかなら ᛗᐦᚴ puk も可。全文は ᛗᐦᚴᚷᐊᐦᑎᐅᓄ ᓴᒪ-ᐋᓄᒪᚷᐦᐅᒪ ᒪᚷᐦ-ᚷᓄᑎᐊᐅᒪ、pukoubne at-oetkunt tku-kebont.
- 3: ᒪᚷᐦ-ᛗᐦᚴ tku-puk。時だと明示するなら ᒪᚷᐦ-ᛗᐦᚴᚷᐦᓴᐅᒪᐊ tku-pukkuanto も可。全文は ᐊᐦ ᚷᐦ-ᐅᐊᐊᐢᐦᐊᐊᐁ ᒪᚷᐦ-ᛗᐦᚴ、ou ku-noopoon tku-puk.
- 4: ᒪᓴᓴ-ᚷᐦᒪᓂᓂᒪ ᒪᒪᓄ-ᒪᒪᓴᓴᐅᒪ ᚷᐅᐦ-ᛗᐦᚴ、taa-kuteet tte-ttaant knu-puk.

第5章 疑問文

2部 「〜ですか？」

この部では、文の内容が正しいかどうかを尋ねる方法を学びます。 「〜ですか？」と尋ねるときの基本の形は、𞤃𞤋𞤆 𞤐𞤂𞤐𞤅 *[主語] [動詞]*. puk boba *[主語] [動詞]*. です。 動詞に接頭辞が付いている場合は、同じ接頭辞を 𞤐𞤂𞤐𞤅 boba の 𞤐𞤂 bo と 𞤐𞤅 ba の間にも入れます。 返答の際、肯定したい場合は 𞤆𞤴 ne、否定したい場合は 𞤂𞤂𞤆𞤋 oonnu と言います。

「〜ではないですか？」「〜ではないですよね？」と、否定的に問いたい時には 𞤃𞤋𞤆 𞤅 *[主語]* 𞤐𞤂- *[動詞]*-𞤅𞤐𞤆 puk a *[主語]* bo- *[動詞]*-abun と表現します。 返答の際は先ほどと逆で、肯定したい場合は 𞤂𞤂𞤆𞤋 oonnu、否定したい場合は 𞤆𞤴 ne と言います。

以降は、前者の「〜ですか？」という文を一般疑問文、後者の「〜ではないですか？」「〜ではないですよね？」という文を否定疑問文と呼ぶことにします。

雷のあとの工房

前の節から少し経ち、パンナは別の作業をしていました。ノエに任せた板がどうなったかを確かめます。 ところが、少し前に雷が鳴り、ノエは道具を床へ落としていました。

パンナ

𞤃𞤋𞤆	𞤐𞤂𞤃𞤋𞤐𞤅	𞤂𞤋	𞤃𞤋-𞤆𞤅𞤊-𞤃𞤂𞤂𞤐𞤐𞤂𞤋.
puk	**bopuba**	**ou**	**pu-nate-poottop.**
puk	*bo-pu-ba*	*ou*	*pu-nate-poottop.*
/fə/	/ˌwufəˈwɑ/	/uː/	/fə.jɑte.foˈsu/
Q	Q-COMPL	2	COMPL-board-bend

/fə ˌwufəˈwɑ uː fə.jɑte.foˈsu/

板はもう曲げましたか？

ノエ

𞤂𞤂𞤆𞤋

oonnu.

/ˈũnə/

no

/ˈũnə/

いいえ、まだです。



pu **bo-pu-nate-poottop-ab.**

/fə/ /wufə.jɑte.fo'su.fɑu̯/

1 NEG-COMPL-board-bend-NEG

/fə wufə.jɑte.fo'su.fɑu̯/

まだ板を曲げていません。



appeute **at-ppeukk** **bnee-tennp.**

/ɑ'p̪fe:te/ /ɑ'p̪fe:x/ /mi'tœ̃/

thunder PST-occur a.little.while.ago

/ɑ'p̪fe:te ɑ'p̪fe:x mi'tœ̃/

さっき雷が鳴りました。



atteenen **pu** **at-puekneb-kuoap** **tku-tuae.**

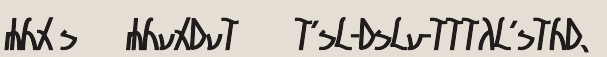
/ɑsi'jœ̃/ /fə/ /ɑpe'ɳeu̯.kɑ/ /ʃəra/

therefore 1 PST-tool-drop LOC-floor

/ɑsi'jœ̃ fə ɑpe'ɳeu̯.kɑ ʃəra/

それで、道具を床に落としたんです。

パンナ



puk a **puekneb** **b'at-nate-bbbot'abun.**

puk a *puekneb* *bo-at-nate-bbbot-ab-un*

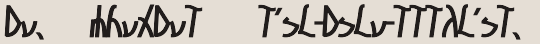
/fə.hɑ/ /pe'ɳeu̯/ /wɑjɑ'te.b̪͡vu.tɑ'wũ/

Q.NEG tool NEG-PST-board-hit-NEG-Q

/fəhɑ pe'ɳeu̯ wɑjɑ'te.b̪͡vu.tɑ'wũ/

道具は板には当たらなかったんですか？

ノエ



ne. **puekneb** **b'at-nate-bbbot'ab.**

ne. *puekneb* *bo-at-nate-bbbot-ab*

/je/ /pe'ɳeu̯/ /wɑt.jɑ'te.b̪͡vu.tɑu̯/

yes tool NEG-PST-board-hit-NEG

/je pe'ɳeu̯ wɑt.jɑ'te.b̪͡vu.tɑu̯/

はい、板には当たっていません。



nate beeekantab.

/jɑ'te/ /weiˌhœ̃'tɑuˌ/

board safe

/jɑ'te weiˌhœ̃'tɑuˌ/

板は無事です。

𐤌𐤊𐤗 𐤕𐤋𐤕𐤔 puk boba で文全体を尋ねる

第1部の 𐤌𐤊𐤗 puk は、物・人・場所など、文の一部分を尋ねました。 𐤌𐤊𐤗 𐤕𐤋𐤕𐤔 puk boba は、その後ろに置いた文全体が正しいかどうかを尋ねます。 語順は通常の文のままです。

平叙文	一般疑問文
𐤋𐤊 𐤃𐤔𐤋𐤅-𐤌𐤋𐤋𐤋𐤋𐤋𐤌 ou nate-poottop. 君は板を曲げる。	𐤌𐤊𐤗 𐤕𐤋𐤕𐤔 𐤋𐤊 𐤃𐤔𐤋𐤅-𐤌𐤋𐤋𐤋𐤋𐤋𐤌 puk boba ou nate-poottop. 君は板を曲げますか？

動詞の接辞を 𐤕𐤋 bo と 𐤕𐤔 ba の間に入れる

𐤕𐤋𐤕𐤔 boba は、後ろの動詞から独立して常に同じ形を取る語ではありません。 後ろの動詞に時制・態・相などの接辞があれば、その接辞を 𐤕𐤋 bo と 𐤕𐤔 ba の間にも入れます。そのあと、第2章で学んだリエゾンと縮約を適用します。

本文では、ここで動作の完了を示す 𐤌𐤊- pu- が動詞 𐤌𐤊-𐤃𐤔𐤋𐤅-𐤌𐤋𐤋𐤋𐤋𐤋𐤌 pu-nate-poottop に付いているため、疑問を示す側にも同じ 𐤌𐤊- pu- を入れて 𐤕𐤋𐤌𐤊𐤕𐤔 bopuba としています。

否定疑問文は否定形の外側まで作る

否定疑問文では、まず第4章で学んだ否定形を作り、その動詞のまとまりの最後に -𐤍𐤃 -un を付けます。 -𐤍𐤃 -un だけが否定疑問文を作るのではなく、文頭の 𐤌𐤊𐤗 𐤔 puk a、否定形 𐤕𐤋-*[動詞]*-𐤔𐤕 bo-*[動詞]*-ab、末尾の-𐤍𐤃 -un を合わせた全体が否定疑問文です。 本文の縮約前の形は次のように組み立てられます。

puk a puekneb bo-at-nate-bbbot-ab-un.

部分	働き
ᚠᚢᚴᛃ puk a	否定疑問文の開始部
ᚠᚢᛂᚴᚢᚱᛏ puekneb	主語「道具」
ᛒᛟ- bo-	否定の前半
ᛃᛚ- at-	過去
ᚢᛃᛚᚢ nate	目的語「板」
ᛒᛒᛒᛟᛚ bbbot	動詞の語幹「打つ・当てる」
-ᛃᛒ -ab	否定の後半
-ᚨᚢ -un	否定形全体の後ろに付く、否定疑問の末尾要素

ᛒᛟ-ᛃᛚ- bo-at- は ᛒ'ᛃᛚ- b'at- に縮約され、後半にもリエゾンを適用するため、本文では ᚠᚢᛂᚴ ᛃ ᚠᚢᛂᚴᚢᚱᛏ ᛒ'ᛃᛚ-ᚢᛃᛚᚢ-ᛒᛒᛒᛟᛚ'ᛃᛒᚨᚢ、puk a puekneb b'at-nate-bbbot'abun. と書いています。 -ᚨᚢ -un は動詞の語幹 ᛒᛒᛒᛟᛚ bbbot の直後ではなく、否定の後半 -ᛃᛒ -ab よりもさらに後ろにあります。

ᚢᚾ ne と ᛟᛟᚾᚾᚢ oonnu の答え方

ᚢᚾ ne は質問で示された内容をそのまま認め、 ᛟᛟᚾᚾᚢ oonnu はその内容を否定します。 日本語の「はい・いいえ」の形だけではなく、質問の内容に賛成するか反対するかで選びます。 質問文をいったん普通の文として読み直し、その文が事実なら ᚢᚾ ne、 事実でなければ ᛟᛟᚾᚾᚢ oonnu と考えると判断できます。

質問の内容	実際の事実	答え	日本語訳
板を曲げた？	曲げた	ᚢᚾ, ne.	はい、曲げました。
板を曲げた？	曲げていない	ᛟᛟᚾᚾᚢ, oonnu.	いいえ、曲げていません。
板に当たらなかった？	当たらなかった	ᚢᚾ, ne.	はい、当たりませんでした。
板に当たらなかった？	実際には当たった	ᛟᛟᚾᚾᚢ, oonnu.	いいえ、当たりました。

否定疑問文への ᚢᚾ ne は、質問中の「当たらなかった」という内容を肯定しています。 そのため、日本語でも「はい、当たりませんでした」と訳せます。 ᛟᛟᚾᚾᚢ oonnu なら「当たらなかった」を退けるので、「いいえ、実際には当たりました」となります。

本課の語彙

語形	発音の目安	意味
ᑎᓀᑕᓄ boba	/wu'wɑ/	一般疑問文を作る基本形
ᑎᓀᒪᑕᓄ bopuba	/ˌwufə'wɑ/	bo-pu-ba の形。ᒪᒃ- pu- のある動詞について尋ねる
-ᖁᐃ -un	/ũ/	ᒪᒃᐦᓄ puk a と否定形とともに否定疑問文を作り、否定形全体の末尾に付く
ᐃᔪ ne	/je/	質問の内容を認める、はい
ᓀᓀᐃᐃᕆ oonnu	/'ũnə/	質問の内容を否定する、いいえ
ᓄᒪᒪᔭᒪᓇ appeute	/ɑˈˌpf̆e:te/	雷
ᒪᒪᔪᔭᐦᐦ ppeukk	/ˌpf̆e:x/	起こる、生じる
ᒪᒃᔪᐅᐃᔪᑎ puekneb	/pe'ŋeu̯/	道具、器具
ᐦᑲᓀᓄᒪ kuoap	/kɑ/	落とす
ᒪᑲᓄᔪ tuae	/ra/	足元、床、床の上
ᑎᑎᑎᒪ bbbot	/b̥͡vu/	打つ、叩く、当てる
ᑐᔪᔪᐦᓄᐃᐃᓄᑐ beeekantab	/wei̯ˌhœ̃ 'tɑu̯/	安全な、大丈夫、心配いらない

確認テスト

1. ᐊᑲ ᐅᓄᒪᔪ-ᓂᓀᓀᒪᒪᒪᓀᓂ ou nate-poottop. を「板を曲げますか？」という一般疑問文にしなさい。
2. ᐊᑲ ᓂᒃ-ᐅᓄᒪᔪ-ᓂᓀᓀᒪᒪᒪᓀᓂ ou pu-nate-poottop. を一般疑問文にし、bo-pu-ba の実際の形も示しなさい。また、ᓂᒃ- pu-、ᐅᓄᒪᔪ nate、ᓂᓀᓀᒪᒪᒪᓀᓂ poottop のうち、疑問を示す側に複写するものを答えなさい。
3. 縮約前の否定形 ᓂᒃᔪᐅᐃᔪᑎ ᑎᓀ-ᓄᒪ-ᐅᓄᒪᔪ-ᑎᑎᑎᒪᒪ-ᓄᑐ、puekneb bo-at-nate-bbbot-ab. を否定疑問文にしなさい。
4. 「板には当たらなかったんですか？」と聞かれ、実際に当たらなかった場合、ᐃᔪ ne と ᓀᓀᐃᐃᕆ oonnu のどちらで答えますか。
5. 同じ質問に対し、実際には板に当たっていた場合はどちらで答えますか。
6. -ᖁᐃ -un は動詞のまとまりのどこに付きますか。また、-ᖁᐃ -un だけで否定疑問文を作ると言えますか。

解答例

- 1: ᒪᒃᐦᓄ ᑎᓀᑕᓄ ᐊᑲ ᐅᓄᒪᔪ-ᓂᓀᓀᒪᒪᒪᓀᓂ puk boba ou nate-poottop.
- 2: ᒪᒃᐦᓄ ᑎᓀᒪᑕᓄ ᐊᑲ ᓂᒃ-ᐅᓄᒪᔪ-ᓂᓀᓀᒪᒪᒪᓀᓂ puk bopuba ou pu-nate-poottop.。bo-pu-ba は ᑎᓀᒪᑕᓄ bopuba になる。複写するのは ᓂᒃ- pu- で、目的語 ᐅᓄᒪᔪ nate と語幹 ᓂᓀᓀᒪᒪᒪᓀᓂ poottop は複写しない。
- 3: 縮約前は ᒪᒃᐦᓄ ᓄ ᒪᒃᔪᐅᐃᔪᑎ ᑎᓀ-ᓄᒪ-ᐅᓄᒪᔪ-ᑎᑎᑎᒪᒪ-ᓄᑐ-ᖁᐃ、puk a puekneb bo-at-nate-bbbot-ab-un.。本文の縮約形は ᒪᒃᐦᓄ ᓄ ᒪᒃᔪᐅᐃᔪᑎ ᑎ′ᓄᒪ-ᐅᓄᒪᔪ-ᑎᑎᑎᒪᒪ′ᓄᑐᖁᐃ、puk a puekneb b'at-nate-bbbot'abun.。
- 4: ᐃᔪ、ne.。「当たらなかった」という質問内容を認めるため。

- 5: 𐞤𐞤𐞣𐞣𐞥 oonnu.。「当たらなかった」という質問内容を否定するため。
- 6: 否定形全体、つまり接頭辞・目的語・語幹・接尾辞からなる動詞のまとまりの最後に付く。-𐞥𐞣 -un 単独ではなく、𐞦𐞥𐞡𐞢 puk a、𐞢𐞤-*[動詞]*-𐞢𐞤 bo-*[動詞]*-ab、-𐞥𐞣 -un の組み合わせ全体で否定疑問文を作る。

第14章 数と時間

1部 数の数え方

本章では、サウォネで数を読む方法と、数を書き表す方法を扱います。 この節ではまず、0から99までの基本的な数え方を整理します。

サウォネは**10進法**を用います。 ただし、複合した数を読むときは、日本語や英語とは逆に、**小さい桁から大きい桁へ**と進みます。 たとえば 32 は「2 と 3個の10」という順で表します。

基本の数詞

0から10までの数詞は次の通りです。10は 𐞗𐞙𐞛𐞟𐞛 bnonto といいます。

数	サウォネ	発音の目安
0	𐞟𐞛𐞟𐞟𐞛 kotko	/hu'ʃu/
1	𐞙𐞛𐞙𐞙 nonn	/jũn/
2	𐞙𐞟𐞢𐞢𐞙𐞙 nueenn	/nœ̃n/
3	𐞣𐞙𐞟𐞙 antn	/œ̃ʔn/
4	𐞤𐞟𐞢𐞟𐞟𐞛 pueuto	/'pe:tu/
5	𐞢𐞟𐞟𐞛𐞛 ettoo	/e'so/
6	𐞙𐞣𐞟𐞛 nato	/jɑ'tu/
7	𐞗𐞟𐞛𐞙𐞢𐞙 buonen	/bũ'nœ̃/
8	𐞙𐞛𐞢𐞗𐞟𐞢𐞙 noebuen	/jœ'bœ̃/
9	𐞤𐞟𐞢𐞗𐞙𐞛𐞙 puebnon	/pe'mũ/
10	𐞗𐞙𐞛𐞙𐞟𐞛 bnonto	/'mũtu/

𐞟𐞛𐞟𐞟𐞛 kotko は、量がまったく無いことを表すときや、後の節で見る記数法で桁に何もないことを示すときに使います。

11から19

10に1から9を足す数は、**一の位を先に置き**、接続の 𐞣- -a- で10につなぎます。

例

- 11: ᐅᐋᐁᐣᓀᑎᐋᐁᒪᐋ nonn'a-bnonto (縮約前: nonn-a-bnonto)
- 12: ᐅᐱᔓᐁᐣᓀᑎᐋᐁᒪᐋ nueenn'a-bnonto (縮約前: nueenn-a-bnonto)

ᓀ -a- は、前後の音の並びによって縮約することがあります。 たとえば 12 では、前の語 nueenn が n で終わるため、-a- が 'a- のようにつき、nueenn-a-bnonto は nueenn'a-bnonto になります。 これは数詞に限らず、サウォネ全体に共通する縮約の規則です。詳しくは**第2章4部 リエゾンと縮約**を参照してください。本章では学びやすさのため、必要に応じて縮約前の形も添えます。

20から99

20、30のような10の倍数は、「何個の10」と考えます。 係数になる数詞を ᑎᐋᐁᒪᐋ bnonto の前に置きます。

数	読み	考え方
20	ᐅᐱᔓᐁᑎᐋᐁᒪᐋ nueenn-bnonto	2個の10
30	ᓴᐅᒪᐁᑎᐋᐁᒪᐋ antn-bnonto	3個の10
90	ᒣᐱᔓᑎᐋᐁᑎᐋᐁᒪᐋ puebnon-bnonto	9個の10

端数があるときは、一の位を先に置いて ᓀ -a- でつなぎます。

代表例

ᐅᐱᔓᐁᓀᐧᐅᒪᐁᑎᐋᐁᒪᐋ

nueenn'a'ntn-bnonto

nueenn-a-antn-bnonto

32

/nɔ̃ẽnɑɑ̃ẽʔn.'mũtu/

2 と 3個の10

35 のように、母音で終わる語と母音で始まる語が並ぶと、母音どうしが縮約することもあります。ᐁᒪᒪᐧᐅᒪᐁᑎᐋᐁᒪᐋ ett'a'ntn-bnonto (縮約前: ettoo-a-antn-bnonto) がその例です。

本節のポイント

- サウォネの数は10進法です。0は ϰλlϰλ kotko といいます。
- 複合した数は、小さい桁から大きい桁へ読みます。
- ⁀ -a- は「足していく」関係を表します。前後の音によって縮約することがあります。
- 10の倍数は「何個の10」として、係数を ƬƊλƊlλ bnonto の前に置きます。

数字を入力して読み方を試したい場合は、付録の **数字変換ツール** を使えます。

練習

1. 次の数をサウォネで読みなさい。

   a. 0
   b. 7
   c. 18
   d. 40
   e. 56

2. 次のサウォネの数詞が表す数を書きなさい。

   a. ϰλlϰλ kotko
   b. ƊλƊƊ′ɔ-ƬƊλƊlλ nonn'a-bnonto
   c. ѵllλλ-ƬƊλƊlλ ettoo-bnonto
   d. ƊɔL′ɔ-ɱʜѵƬƊλƊ-ƬƊλƊlλ nat'a-puebnon-bnonto

解答例

- 1.a: ϰλlϰλ kotko
- 1.b: ƬʜλƊѵƊ buonen
- 1.c: ƊλѵƬʜѵƊ′ɔ-ƬƊλƊlλ noebuen'a-bnonto (縮約前: noebuen-a-bnonto)
- 1.d: ɱʜѵʜlλ-ƬƊλƊlλ pueuto-bnonto
- 1.e: ƊɔL′ɔ′llλλ-ƬƊλƊlλ nat'a'ttoo-bnonto (縮約前: nato-a-ettoo-bnonto)
- 2.a: 0
- 2.b: 11
- 2.c: 50
- 2.d: 96

第14章 数と時間

2部 大きな数

前の節では、99までの数を「一の位、十の位」の順で読みました。 この節では、100以上の数を扱います。

基本の考え方は同じです。 小さい桁から大きい桁へ進み、必要に応じて ᓄ -a- で足していきます。

100、1,000、10,000

100以上では、まとまった桁を表す語が使われます。 100、1,000、10,000には、それ自体を読む形と、ほかの数と組み合わせるときに使いやすい単位形があります。

数	その数を読む形	単位としての形	単位の発音
100	ᑎᐅᕕᒪᓕ-ᑎᐅᕕᒪᓕ bnonto-bnonto	ᒪᒪᔨᕕᒐ ttkotn	/tʃuʔn/
1,000	ᑎᐅᕕᒪᓕ-ᒪᒪᔨᕕᒐ bnonto-ttkotn	ᔨᖏᓂᖏᔭᒪᖏᓂ kuepuatuee	/kepɑˈri/
10,000	ᑎᐅᕕᒪᓕ-ᔨᖏᓂᖏᔭᒪᖏᓂ bnonto-kuepuatuee	ᔭᓂᖏᔭᔨᐅᓂᒪᒪᕕ apuaknetto	/ɑpɑˌŋeˈsu/

ここには、1部で見た規則が現れています。ある桁の**係数が1のときは、その桁の単位名をそのまま置かず、ひとつ下の単位に ᑎᐅᕕᒪᓕ bnonto を掛けます**。単位名を使うのは、係数が2以上になったときです。 たとえば、単に100と言うときは ᑎᐅᕕᒪᓕ-ᑎᐅᕕᒪᓕ bnonto-bnonto (10個の10) と言い、ᒪᒪᔨᕕᒐ ttkotn は使いません。 200になって初めて「2個の100」として ᐅᖏᓂᓂᐅᐅ-ᒪᒪᔨᕕᒐ nueenn-ttkotn を使います。 1,000と2,000、10,000と20,000の関係も同じです。

100以上の作り方

それぞれの桁の値を、小さい桁から順に並べます。 間に値がない桁は読みません。

> **例**
>
> - 200: ᐅᖏᓂᓂᐅᐅ-ᒪᒪᔨᕕᒐ nueenn-ttkotn (2個の100)
> - 1,000: ᑎᐅᕕᒪᓕ-ᒪᒪᔨᕕᒐ bnonto-ttkotn (10個の100)
> - 20,000: ᐅᖏᓂᓂᐅᐅ-ᔭᓂᖏᔭᔨᐅᓂᒪᒪᕕ nueenn-apuaknetto (2個の10,000)

代表例

256は「6 と 5個の10 と 2個の100」という順で表します。

> **nat'a'ttoo-bnont'a-nueenn-ttkotn**
>
> *nato-a-ettoo-bnonto-a-nueenn-ttkotn*
>
> 256
>
> /jɑtɑ'so.mũtɑ.nɛ̃n.ʧʊʔn/
>
> **6 と 5個の10 と 2個の100**

1024は「4 と 2個の10 と 10個の100」と考えます。 10個の100は TDλDLλ-LLXλLD bnonto-ttkotn で、これは1,000を表します。

> **pueut'a-nueenn-bnont'a-bnonto-ttkotn**
>
> *pueuto-a-nueenn-bnonto-a-bnonto-ttkotn*
>
> 1024
>
> /'pe:tɑ.nɛ̃n.mũtɑ.'mũtu.ʧʊʔn/
>
> **4 と 2個の10 と 10個の100**

次の節で説明する数字変換ツールの初期値である 1,048,576 も、同じ考え方で分解できます。

> **nat'a-buonen-bnont'a'ttoo-ttkotn'a-noebuen-kuepuatu'a-pueut'apuaknett'a-bnonto-bnont'apuaknetto**
>
> *nato-a-buonen-bnonto-a-ettoo-ttkotn-a-noebuen-kuepuatuee-a-pueuto-apuaknetto-a-bnonto-bnonto-apuaknetto*
>
> 1,048,576
>
> **6 と 7個の10 と 5個の100 と 8個の1,000 と 4個の10,000 と 100個の10,000**

10,000より大きな数

10,000をこえる数でも、係数が1の桁は単位名を裸で置かず、ひとつ下の単位に 𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀 bnonto を掛けます。 たとえば100,000は「10個の10,000」で 𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnont'apuaknetto (縮約前: bnonto-apuaknetto) です。 大きな数を読むときにも、母音で終わる語と母音で始まる語が繋がれば縮約が起こります。

10,000をさらに何度も掛けた数では、𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 apuaknetto を並べて表します。 2乗までは 𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀-𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 apuaknetto-apuaknetto のように並べ、3乗以上になると、指数の数を 𐤍- -e- で後ろにつなぎます。 たとえば 2,000,000,000,000 (10,000の3乗の2倍) は 𐤃𐤇𐤅𐤅𐤃𐤃-𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤍𐤓𐤃𐤋𐤃 nueenn-apuaknett'e'ntn (縮約前: nueenn-apuaknetto-e-antn) です。 𐤍- -e- も 𐤏- -a- と同じように、前後の音によって縮約します。

数	読み	考え方
100,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnont'apuaknetto 縮約前: bnonto-apuaknetto	10個の10,000
1,000,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀-𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnonto-bnont'apuaknetto 縮約前: bnonto-bnonto-apuaknetto	100個の10,000
10,000,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀-𐤋𐤋𐤇𐤋𐤋𐤃-𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnonto-ttkotn-apuaknetto	1,000個の10,000
100,000,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀-𐤇𐤊𐤅𐤐𐤀𐤕𐤅𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnonto-kuepuatu'apuaknetto 縮約前: bnonto-kuepuatuee-apuaknetto	10個の1,000個の10,000
200,000,000	𐤃𐤇𐤅𐤅𐤃𐤃-𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 nueenn-apuaknett'apuaknetto 縮約前: nueenn-apuaknetto-apuaknetto	2個の10,000の2乗
1,000,000,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnont'apuaknett'apuaknetto 縮約前: bnonto-apuaknetto-apuaknetto	10個の10,000の2乗
10,000,000,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀-𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnonto-bnont'apuaknett'apuaknetto 縮約前: bnonto-bnonto-apuaknetto-apuaknetto	100個の10,000の2乗
1,000,000,000,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀-𐤇𐤊𐤅𐤐𐤀𐤕𐤅𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤀 bnonto-kuepuatu'apuaknett'apuaknetto 縮約前: bnonto-kuepuatuee-apuaknetto-apuaknetto	10個の1,000個の10,000の2乗
2,000,000,000,000	𐤃𐤇𐤅𐤅𐤃𐤃-𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤍𐤓𐤃𐤋𐤃 nueenn-apuaknett'e'ntn 縮約前: nueenn-apuaknetto-e-antn	2個の10,000の3乗
10,000,000,000,000	𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀𐤔𐤐𐤍𐤊𐤕𐤁𐤅𐤋𐤋𐤍𐤓𐤃𐤋𐤃 bnont'apuaknett'e'ntn 縮約前: bnonto-apuaknetto-e-antn	10個の10,000の3乗

本節のポイント

- ある桁の係数が1のときは、その桁の単位名をそのまま置かず、ひとつ下の単位に 𐤕𐤁𐤍𐤋𐤀 bnonto を掛けます。単位名を使うのは、係数が2以上になったときです。

- ᓭᐦᐱᓴᐁᐅᒪᒪᓕ apuaknetto は2乗まで並べて表し、3乗以上は ᓀᓐ -e- で指数の数をつなぎます。
- 母音どうしが並ぶ境目では、複合語の内部や ᓀᓐ -e- の前後でも縮約が起こります。

数字を入力して読み方を試したい場合は、付録の **数字変換ツール** を使えます。

練習

1. 次の数をサウォネで読みなさい。

   a. 100
   b. 305
   c. 4,020
   d. 100,000,000
   e. 200,000,000

2. 次のサウォネの数詞が表す数を書きなさい。

   a. ᐁᐦᐣᐣᐁᐁ-ᒪᒪᔨᐯᓘᒪᐁ nueenn-ttkotn
   b. ᓂᐦᐣᐦᒪᐟᐢᐩᐁᒪᒪᔨᐯᓘᒪᐁ pueut'a'ntn-ttkotn
   c. ᒣᐁᓘᐁᒪᐟᐢᓂᐦᐱᓴᐁᐅᒪᒪᐟᐢᓂᐦᐱᓴᐁᐅᒪᒪᓕ bnont'apuaknett'apuaknetto

解答例

- 1.a: ᒣᐁᓘᐁᒪᓕ-ᒣᐁᓘᐁᒪᒪᓕ bnonto-bnonto
- 1.b: ᓀᒪᒪᐟᐢᐩᐁᒪᒪᔨᐯᓘᒪᐁ ett'a'ntn-ttkotn (縮約前: ettoo-a-antn-ttkotn)
- 1.c: ᐁᐦᐣᐣᐁᐁ-ᒣᐁᓘᐁᒪᒪᐟᐢᓂᐦᐱᓂᐦᒪᓕ-ᚷᐦᐣᓂᐦᐱᓴᒪᐦᐣᐣ nueenn-bnont'a-pueuto-kuepuatuee (縮約前: nueenn-bnonto-a-pueuto-kuepuatuee)
- 1.d: ᒣᐁᓘᐁᒪᓕ-ᚷᐦᐣᓂᐦᐱᓴᒪᐦᐟᐢᓂᐦᐱᓴᐁᐅᒪᒪᓕ bnonto-kuepuatu'apuaknetto (縮約前: bnonto-kuepuatuee-apuaknetto)
- 1.e: ᐁᐦᐣᐣᐁᐁ-ᐢᓂᐦᐱᓴᐁᐅᒪᒪᐟᐢᓂᐦᐱᓴᐁᐅᒪᒪᓕ nueenn-apuaknett'apuaknetto (縮約前: nueenn-apuaknetto-apuaknetto)
- 2.a: ᕼᐢᐢ 200
- 2.b: ᕼᐢᕽ 304
- 2.c: ᒪᐢᐢᐢᐢᐢᐢᐢᐢᐢ 1,000,000,000

第14章 数と時間

3部 記数法

ここまで、サウォネで数をどう読むかを見てきました。 この節では、数を文字としてどう書き表すか、つまり記数法を扱います。

サウォネでは、数を書くために、サナフナナの通常の文字とは別の文字を使います。 これは**サナフナナ数字**と呼ばれ、0から9までの数字と、10・100・1,000・10,000の位を表す文字、さらに指数や区切りを示す記号を含みます。 本節では、サナフナナでの表示の横に、入力しやすいアルファベット転写も括弧で添えます。

サナフナナ数字は、もともとサナフナナの制定時に作られた文字ではありません。 近隣の国ピカニで使われていたピカニ数字がサウォネに取り入れられ、サナフナナと一緒に使われる数字として定着したものです。 そのため、字形は現在のピカニ数字とほとんど同じです。

サナフナナ数字

サナフナナ数字の一覧を表に示します。

サナフナナ数字	アラビア数字	サナフナナ数字	アラビア数字
𞋀	0	𞋅	5
𞋁	1	𞋆	6
𞋂	2	𞋇	7
𞋃	3	𞋈	8
𞋄	4	𞋉	9

位を表す記号

記号	転写	表す数	読みの目安
ᶎ	W	10	ᒣᐁᐃᐁᒪᐃ bnonto
ᵶ	w	10	その位の数字が1のときの10
ᘁ	X	100	ᒪᒪᚸᐃᒪᐁ ttkotn
ₒ	Y	1,000	ᚸᚴᔪᚼᚴᔨᒪᚴᔪᔪ kuepuatuee
ₔ	Z	10,000	ᔪᚼᚴᔨᚸᐁᔪᒪᒪᐃ apuaknetto

10を表す記号には、ᶎ W と ᵶ w があります。 ᶎ W は数としての10そのものに使いますが、それより上の位では、その位の数字がちょうど1のとき、数がどれだけ大きくなっても必ず ᵶ w を使います。 頭を ᵶ w にしたうえで、続く ᶎ W・ᘁ X・ₒ Y・ₔ Z を、全体の値が正しくなるように選びます。 たとえば 100,000 は ᵶₔ (wZ)、1,000,000 は ᵶᶎₔ (wWZ)、10,000,000 は ᵶᘁₔ (wXZ) のように、頭は常に ᵶ w のままで、後ろの記号だけが桁数に応じて変わります。

ᵛ e と ˙- は、数を表す値そのものではなく、大きな数を組み立てたり読み分けたりするための記号です。

記号	役割
ᵛ e	10,000を何乗するかを後ろにつなぐ。2乗までは ₔₔ ZZ のように ₔ Z をそのまま二つ並べ、3乗以上で使う。
˙-	指数の数字と、そのあとに続く桁の数字を見分けにくいときの区切り。

読むように書く方法

日常的には、数を読む順に近い形で書く **tupan-nuanuakok'a-put** がよく使われます。 ᒪᚴᚼᔨᐅ tupan (方法)、ᐅᚴᔨᐅᚴᔨᚸᐁᚸ nuanuakok (書く)、ᚼᚴᒪ put (見る) による合成語で、直訳すれば「書いて読む方法」という意味です。 小さい桁から順に、必要な数字と位の記号を並べます。

この方法では、数詞を読むときの ᔨ -a- は書きません。位の記号がすでに桁のつながりを示しているためです。 また、数としての0 (ᚸᐁᒪᚸᐁ kotko) 以外では、0を書きません。値のない桁は、位の記号ごと省きます。

一の位から連続して0でない数字が並ぶ場合は、位の記号をつけず、そのまま小さい桁から数字を並べます。 たとえば 123 は *ɯhl* (321) と書けます。

基本の例

数	書き表し方	考え方
0	𐋤 (0)	数としての0
10	𐋵 (W)	10
11	𐋐𐋐 (11)	1 と 10
12	𐋑𐋐 (21)	2 と 10。低い桁から書く
20	𐋑𐋵 (2W)	2個の10
21	𐋐𐋑 (12)	1 と 20
22	𐋑𐋑 (22)	2 と 20
100	𐋶𐋵 (wW)	10個の10
120	𐋑𐋵𐋶𐋵 (2WwW)	2個の10と10個の10
200	𐋑𐋷 (2X)	2個の100
1,000	𐋶𐋷 (wX)	10個の100
1,005	𐋕𐋶𐋷 (5wX)	5 と 10個の100
1,024	𐋓𐋑𐋶𐋷 (42wX)	24と10個の100
1,100	𐋶𐋵𐋶𐋷 (wWwX)	10個の10と10個の100
2,000	𐋑𐋸 (2Y)	2個の1000
3,012	𐋑𐋐𐋒𐋸 (213Y)	12と3個の1000
3,060	𐋖𐋵𐋒𐋸 (6W3Y)	6個の10と3個の1000

万の桁

数	書き表し方	考え方
10,000	𝆺𝅥o (wY)	10個の1,000
10,001	𝅗𝅥𝆺𝅥o (1wY)	1 と 10個の1,000
20,000	𝅗𝅥e (2Z)	2個の10,000
20,044	33𝅗𝅥e (442Z)	44 と 2個の10,000
100,000	𝆺𝅥e (wZ)	10個の10,000
200,000	𝅗𝅥𝆺𝅥e (2WZ)	2個の10個の10,000
1,000,000	𝆺𝅥𝆺𝅥e (wWZ)	10個の10個の10,000
2,000,000	𝅗𝅥3e (2XZ)	2個の100個の10,000
10,000,000	𝆺𝅥3e (wXZ)	10個の100個の10,000

10,000の累乗

数	書き表し方	考え方
100,000,000	𝆺𝅥oe (wYZ)	10個の1,000個の10,000
200,000,000	𝅗𝅥ee (2ZZ)	2個の10,000の2乗
1,000,000,000	𝆺𝅥ee (wZZ)	10個の10,000の2乗
10,000,000,000	𝆺𝅥𝆺𝅥ee (wWZZ)	10個の10個の10,000の2乗
1,000,000,000,000	𝆺𝅥oee (wYZZ)	10個の1,000個の10,000の2乗
2,000,000,000,000	𝅗𝅥e𝅘𝅥𝅯3 (2Ze3)	2個の10,000の3乗
10,000,000,000,000	𝆺𝅥e𝅘𝅥𝅯3 (wZe3)	10個の10,000の3乗

指数と桁の区切り

e Z や ee ZZ で終わる項の直後に次の桁の数字が続いても、記号自体が境目になるので読み分けに困りません。 一方、10,000の3乗以上を表す 𝅘𝅥𝅯 e のあとの指数は数字で終わるため、続けて次の桁の数字を書くと、指数の続きなのか次の桁の数字なのか見分けにくくなることがあります。 このときだけ - - で区切ります。

> **例**
>
> - 3,002,000,000,000 → 𝅗𝅥𝆺𝅥e𝅗𝅥𝆺𝅥e𝅘𝅥𝅯3 (2WZZ3Ze3) (2個の10個の10,000の2乗 と 3個の10,000の3乗)。 ee ZZ の直後なので、区切りの - - は不要です。

- 3,002,000,000,000,000 → 𐤄𐤏𐤍𐤌-𐤌𐤏𐤏𐤍𐤌 (2Ze3-3YZe3) (2個の10,000の3乗 と 3個の1,000個の10,000の3乗)

2番目の例で区切りの - - がなければ、𐤄𐤏𐤍𐤌𐤌𐤏𐤏𐤍𐤌 (2Ze33YZe3) となり、続く「33」が指数「33」(10,000の33乗)なのか、指数「3」とそれに続く次の桁の数字「3」なのかが読み分けられません。

数字だけを並べる方法

もう一つの方法として、各桁の数字をそのまま小さい桁から並べる **tupan-totn** があります。 𐤋𐤊𐤌𐤑𐤃 tupan (方法) と 𐤋𐤇𐤋𐤃 totn (数える) の合成語で、直訳すれば「数える方法」という意味になります。 アラビア数字とは並びが逆になります。 この方法では、桁の0もそのまま書きます。

tupan-nuanuakok'a-put が日常の読み書きで使われるのに対し、**tupan-totn** は、機器の表示や記録のように、桁数をそろえて並べる必要がある場面で使われます。 値のない桁にも0を置くことで、どの数もいつも同じ桁数で書けるようになります。

例

- 9106 → 𐤆𐤚𐤅𐤑 (6019)
- 102 → 𐤄𐤚𐤉 (201)
- 100 → 𐤚𐤚𐤉 (001)

見比べてみる

数	tupan-nuanuakok'a-put	tupan-totn
21	𐤉𐤄 (12)	𐤉𐤄 (12)
102	𐤄𐤆𐤆 (2wW)	𐤄𐤚𐤉 (201)
1,024	𐤃𐤄𐤆𐤃 (42wX)	𐤃𐤄𐤚𐤉 (4201)
1,121	𐤉𐤄𐤉𐤉 (1211)	𐤉𐤄𐤉𐤉 (1211)
2,150	𐤂𐤆𐤆𐤄𐤏 (5WwW2Y)	𐤚𐤂𐤉𐤄 (0512)
30,303	𐤌𐤌𐤃𐤌𐤍 (33X3Z)	𐤌𐤚𐤌𐤚𐤌 (30303)
100,000,000	𐤆𐤏𐤍 (wYZ)	𐤚𐤚𐤚𐤚𐤚𐤚𐤚𐤉 (000000001)

21とその他の数を見比べると、**tupan-nuanuakok'a-put** は一の位から連続する数字だけをそのまま並べ、位が上がると記号を使うのに対し、**tupan-totn** は常にすべての桁を数字で埋めることがわかります。102のように間に0が入る数では、両者の書き方がはっきり分かれます。

実際に数字を入力して比べたい場合は、付録の **数字変換ツール** を使えます。

本節のポイント

- サナフナナ数字は、0〜9の数字、ꞩW・ꞩw・ȝX・ₒY・ₔZ の位の記号、指数を示す ᵥe、区切りの ‑- からなります。
- その位の数字がちょうど1のときは、数の大きさに関わらず必ず ꞩw を使い、続く ꞩW・ȝX・ₒY・ₔZ で桁数を合わせます。
- **tupan-nuanuakok'a-put** は、日常の読み書きに使う、読む順に近い書き方です。ᦉ -a- は書かず、数としての0以外は0を書きません。
- **tupan-totn** は、桁数をそろえたいときに使う書き方です。値のない桁にも0を置きます。
- 指数のあとに次の桁の数字が続いて読み分けにくいときは、‑- で区切ります。

練習

1. 次の数を tupan-nuanuakok'a-put で書きなさい。

   a. 0
   b. 13
   c. 2,024
   d. 10,000,000

2. 次の数を tupan-totn で書きなさい。

   a. 21
   b. 340

3. 次のサナフナナ数字 (tupan-nuanuakok'a-put) が表す数を、アラビア数字で書きなさい。

   a. ℎₔₔ (2ZZ)
   b. ℎₔᵥ𝚖‑𝚖ₒₔᵥ𝚖 (2Ze3-3YZe3)

解答例

- 1.a: ᵩ (0)
- 1.b: 𝚖𝚕 (31)
- 1.c: ȝℎℎₒ (422Y)

- 1.d: ჳ೦ (wXZ)
- 2.a: *lh* (12)
- 2.b: ৯3ℎ (043)
- 3.a: 200,000,000
- 3.b: 3,002,000,000,000,000